

配達ニツキ別殊ノ方法ヲ用ルコトヲ定メ之ヲ報知  
スルトキハ其成法ヲ以テ亦各出狀人ニ利益ヲ與フ  
ルコトヲ務ムヘシ

第十條 同盟各國ニ於テ萬國稅則ヲ制定スルニハ左  
ノ諸件ヲ標準トスヘシ  
同盟各國孰レノ兩國間ノ局ニテモ同線路ヲ以テ送  
受スル諸音信ノ稅額ハ此彼同一タルヘシ而シテ此  
法ヲ施行スルニ當リ歐羅巴ニ於テハ一國ヲ二大區  
ニ區分スルヲ得ヘシ  
稅額ハ首尾ノ政府ト中間ノ政府ト協議ノ上各國順  
次之ヲ定ムヘシ  
同盟各國ノ間ニ送受スル音信ニ適用スヘキ稅額ハ

何時タリトモ協議ノ上之ヲ改革増減スルコトヲ得  
ヘシ  
萬國稅則ヲ制定スルニ方テハ「フラン」ヲ以テ貨幣ノ  
本位ト定ム

第十一條 同盟各國ノ萬國電信局務ニ關スル音信ハ  
其各國ノ諸線路ヲ悉ク無稅ニテ傳送スヘシ  
第十二條 同盟各國ハ互ニ其收稅ノ計算ヲ爲スヘシ  
第十三條 此條約書ハ細目規則ヲ合セテ全備スル者  
トス而シテ該則ノ條件ハ同盟國各本局協議ノ上何  
時タリトモ之ヲ改正スルヲ得ヘシ  
第十四條 細目規則中ニ云フ同盟國中各一政府下ニ  
置ク萬國電信事務局ハ萬國電信ニ關スル諸般ノ報

電信條例



告ヲ集メ之ヲ整理出板シ税則並ニ細目規則ノ改正  
ヲ請求スル者アラハ其書ヲ同盟國各本局ニ回達シ  
而ノ衆議一致シタル改正ノ件々ヲ廣告シ且萬國電  
信ノ裨益トナルヘキ諸項ヲ阻勉熟慮シテ之ヲ執行  
スル等ノ任ヲ受クルモノトス

此事務局ニ於テ庶務ヲ調理スル爲メ要スル費用ハ  
同盟國各本局ヨリ支給スヘシ

第十五條 第十條ニ云フ税則及ヒ第十三條ニ云フ細  
目規則ハ此條約書ニ附属シタル者ニテ條約書ト同  
一ノ効ヲ有シ且同時ニ施行スヘキモノトス  
右税則及ヒ細目規則ハ會議ノ上更改スルヲ得ヘシ  
其際ニ於テハ從來參與セシ各國皆之ニ會同スルヲ

得ヘシ

此會議ハ定期毎ニ之ヲ開キ而シテ毎回其次會ノ期  
日並ニ場所ヲ定ムルモノトス

第十六條 此會議ハ同盟各國ノ諸本局ヨリ派出スル  
所ノ理事官ヲ以テ成立スヘキモノトス  
會議ニ於テハ各本局ノ理事官數名アリトモ決議ノ  
トキハ一人ヲ以テ筭ス但一政府下ノ諸局ヨリシテ  
各此會議ニ列セント欲スルトキハ外國交際上ノ手  
續ヲ經テ期日前ニ其會議ヲ開クヘキ國ノ政府ヘ照  
會シ各別ノ理事官ヲ派出セシムルトキハ此限ニア  
ラス

右會議ニ於テ改正スル件々ト雖モ同盟國各政府ノ



批准ヲ經タル後ニ非サレハ施行スヘカラス

第十七條 同盟各國ハ萬國一般ニ關係セサル事務上ノ點ニ就テハ各國各自諸般ノ約定ヲ爲スノ權ヲ有ス

第十八條 方今此條約ニ與ラサル國ト雖モ其請求ニ依リテハ之ニ加入スルコトヲ許スヘシ

右加入ハ會同ヲ開キシ國へ外國交際上ノ手續ヲ經テ照會スヘシ然ルトキハ該國ヨリ其他諸國へ之ヲ報知スヘキモノトス

加入セシ上ハ當然ニ此條約ニテ定メタル諸件ヲ行ヒ且衆益ヲ共ニスヘキモノトス

第十九條 此條約ニ加入セサル國々或ハ私立會社トノ通信ハ此條約第十三條ニ云フ所ノ規則ニ基キ愈

進歩ノ通信方法ヲ以テ衆利ヲ圖リ之ヲ取扱フベシ

第二十條 此條約ハ歐曆一千八百七十六年一月一日

ヨリ施行シ永久ニ遵守スヘキモノトス若シ之ヲ廢棄セント欲スト雖モ其日ヨリ後一ケ年ヲ過ルマテハ仍ホ遵守スヘシ

何レノ國ニ於テ此條約ヲ廢棄スルトモ其國ヲ除クノ外他ノ同盟國ニ於テハ依然之ヲ遵守スヘシ

第二十一條 今般ノ條約ハ同盟國各政府ノ批准ヲ得テ確定スヘキモノトス因テ其定了シタル憑證ハ勉メテ速ニ比特府ニ於テ互ニ相交換スヘシ

右條件信證ノ爲メニ各國全權公使各其名ヲ手署シ且其印ヲ鈐ス



日本國  
 日耳曼國  
 澳地利國  
 匈牙利國  
 白義國  
 丁抹國  
 埃及國  
 西班牙國  
 佛蘭西國  
 大不列顛國  
 英領印度國  
 印度並歐羅  
 巴問管轄

希臘國  
 伊太利國  
 那威國  
 荷蘭國  
 波斯國  
 葡萄牙國  
 魯西亞國  
 瑞典國  
 瑞西國  
 土耳其國

(參考)  
 明治十二年八月廿七日  
 工部省第十二號布達

電信條例



秋田縣下横手秋田ヲ經テ山形縣下酒田ニ至ル電信線  
路ヲ變換更ニ全縣下山形電信分局ヨリ酒田ニ架設シ  
及ヒ椽木縣下宇都宮電信分局ヨリ茨城縣下水戸ニ至  
ル電信落成且静岡縣下掛川驛ノ三所ヘ分局ヲ設置シ  
孰レモ來ル九月一日ヨリ開局音信料ノ儀ハ左ノ通ニ  
候條此旨布達候事

但明治十一年當省第十七號布達電信賃錢表ノ内酒  
田ノ一欄内ハ取消候事

和文

水戸分局ヨリ隣局宇都宮ヘハ一音信料金七錢東京ヘ  
ハ宇都宮ノ料金ニ金二錢ヲ加フヘシ○宇都宮以北各  
分局ヨリ水戸ヘハ宇都宮ノ料金ニ金二錢ヲ加ヘ東京

以西及ヒ浦和以北各局ヨリハ東京迄ノ料金ニ前條料  
金(九錢)ヲ合加スヘシ

歐文

水戸分局ヨリ隣局宇都宮ヘハ一音信料金二十五錢東  
京ヘハ金五十錢ヲ拂フヘシ○宇都宮以北各分局ヨリ  
水戸ヘハ東京ト同シ東京以西及ヒ浦和以北各分局ヨ  
リハ東京迄ノ料金ニ前條料金(五十錢)ヲ合加スヘシ○  
掛川分局ヨリ隣局静岡及ヒ濱松ヘハ和文一音信料金  
六錢歐文ハ金二十五錢ヲ拂フヘシ○東西各分局ヨリ  
掛川ヘノ和歐文音信料ハ濱松ト同シ○酒田分局ヨリ  
隣局山形及ヒ横手ヘハ和文一音信料金七錢歐文ハ金  
二十五錢秋田ヘノ和文料金ハ横手ノ料金ニ金二錢ヲ



加へ歐文ハ金二十五錢ヲ拂フヘシ○東京其他各分局  
ヨリ酒田へノ和歐文音信料ハ横手ト同シ

(參考) 明治十二年九月三十日  
工部省第十三號布達

石川縣下金澤分局ヨリ同縣下高岡ヲ經テ伏木迄及ヒ  
福岡縣下久留米電信分局ヨリ同縣下柳川ニ至ル電線  
孰レモ落成ニ付右三ヶ所へ分局ヲ設置シ來ル十月十  
日ヨリ開局音信料ノ儀ハ左ノ通ニ候條此旨布達候事

和文

高岡分局ヨリ隣局伏木及魚津金澤へハ一音信料金六  
錢ヲ拂フヘシ○金澤以南大津以東以西各分局ヨリ高  
岡及ヒ伏木へハ金澤迄ノ料金ニ金一錢ヲ加へ魚津以

北直江津以南以北各分局ヨリハ魚津迄ノ料金ニ金一  
錢ヲ加フヘシ

歐文

高岡分局ヨリ隣局伏木及ヒ魚津金澤へハ一音信料金  
二十五錢ヲ拂フヘシ○金澤以南大津以東以西各分局  
ヨリ高岡及伏木へハ魚津ト同シ魚津以北直江津以南  
以北各分局ヨリハ金澤ト同シ○柳川分局ヨリ隣局三  
池久留米へノ和文一音信料金六錢歐文金二十五錢ヲ  
拂フヘシ○東西各分局ヨリ柳川へノ和歐文音信料ハ  
三池ト同シ

(參考) 明治十二年十一月十三日  
工部省第十五號布達

電信條例



石川縣下福井電信分局ヨリ同縣下坂井港へ電線架設  
及ヒ青森縣下八戸右兩處ニ電信分局ヲ設置シ本月二  
十日ヨリ開局音信料ノ儀左ノ通りニ候條此旨布達候  
事

- 一 坂井分局ヨリ鄰局福井へハ和文一音信料金七錢歐  
文ハ金二十五錢ヲ拂フヘシ
- 一 福井以南大津以東以西各分局ヨリ坂井へノ和文料  
金ハ福井マテノ料金ニ金二錢ヲ加ヘ歐文ハ金澤ト  
同シ福井以北直江津以南以北各分局ヨリノ和文料  
金ハ福井マテノ料金ニ金二錢ヲ加ヘ歐文ハ敦賀ト  
同シ
- 一 八戸分局ヨリ鄰局盛岡及青森へハ和文一音信料金

七錢歐文金二十五錢ヲ拂フヘシ

一 盛岡以南各分局ヨリ八戸へノ和文料金ハ盛岡マテ  
ノ料金ニ金二錢ヲ加ヘ歐文ハ青森ト同シ青森以北  
各分局ヨリノ和文料ハ青森マテノ料金ニ金二錢ヲ  
加ヘ歐文ハ盛岡ト同シ

○ 出版條例 乾卷三百十三丁附錄五ノ卷五十三丁同  
六ノ卷九十四丁同七ノ卷百廿一丁參看

(參考) 明治十二年八月十八日  
內務省甲第十二號布達

本年四月ヨリ六月マテ版權授與書目并版權返納等別  
冊ノ通候條此旨布達候事

(別冊零之)

出版條例



○鎮臺條例 乾卷四百十

(廢止) 明治十二年九月十五日太政官第三十六號ヲ以テ布告

明治六年七月第二十五號布告鎮臺條例廢止候條此旨布告候事

(改正) 明治三十三年九月十五日太政官第三十三號ヲ以テ府縣へ達

鎮臺條例別冊之通被定候條此旨相達候事

別冊

軍管

第一條 凡ソ帝國內所在ノ現役後備ノ各種兵隊ハ分テ七軍管トナシ各軍管ニ鎮臺ヲ置キ其司令官ニ統屬スルヲ左ノ如シ

第一軍管ハ第一師管(營所東京)

第二師管(營所佐倉) 第三師管(營所高崎)ヲ包括シ東

京鎮臺ニ統屬ス

第二軍管ハ第四師管(營所仙臺) 第五師管(營所青森)

ヲ包括シ仙臺鎮臺ニ統屬ス

第三軍管ハ第六師管(營所名古屋) 第七師管(營所金

澤)ヲ包括シ名古屋鎮臺ニ統屬ス

第四軍管ハ第八師管(營所大坂) 第九師管(營所大津)

第十師管(營所姫路)ヲ包括シ大坂鎮臺ニ統屬ス

第五軍管ハ第十一師管(營所廣嶋) 第十二師管(營所

丸龜)ヲ包括シ廣嶋鎮臺ニ統屬ス

第六軍管ハ第十三師管(營所熊本) 第十四師管(營所

鎮臺條例



小倉ヲ包括シ熊本鎮臺ニ統屬ス

第二條 凡ソ六軍管ハ其管下ノ兵員戰時ニ當リ畧一軍ヲ興スニ足ルヲ以テ軍管ト名ケ其師管ハ略一師ヲ興スニ足ヲ以テ師管ト名ク

第三條 凡ソ師管ノ營所ニハ其司令部並ニ後備軍司令部ヲ置キ管内ノ現役後備ヲ分轄セシメ而シテ管内又別テ數箇ノ分營若クハ陸軍哨所ヲ置キ時宜ニ依テ現役兵隊ヲ分駐セシムルヲ左ノ如シ

- 東京師管内 小田原 靜岡 甲府
- 佐倉師管内 木更津 水戸 宇都宮
- 高崎師管内 新發田 高田 新潟
- 仙臺師管内 白川 水澤 若松

- 青森師管内 盛岡 秋田 山形
  - 名古屋師管内 豐橋 岐阜 松本
  - 金澤師管内 七尾 福井 敦賀
  - 大阪師管内 兵庫 和歌山 西京
  - 大津師管内 津
  - 姫路師管内 鳥取 岡山 豐岡
  - 廣島師管内 松江 濱田 山口
  - 九龍師管内 徳島 須崎浦 宇和島
  - 熊本師管内 千歳 飢肥 鹿兒島 琉球
  - 小倉師管内 福岡 長崎 對馬
- 第四條 凡ソ分營ノ數四十一師管ノ營所ト合シテ五十五トナシ各其區域ヲ畫シテ三府三十六縣ト略相

鎮臺條例



對峙シ以テ其管内ノ靜謐ヲ保護セシム

第五條 北海道ハ第七軍管トス其守備方法ハ兵ヲ設置スルノ後他ノ軍管ト同一ニスヘシ

第六條 凡ソ六管ノ鎮臺ニハ司令官少將一員ヲ置キ以テ其軍管内ノ軍務ヲ董督セシム其軍令ニ於テハ本管屬スル所ノ監軍中將ニ隸シ勅命ヲ奉シテ所管ノ軍隊ヲ指揮シ有事ノ日ニ方リテハ旅團長トシテ其監軍中將即チ師團長ニ隸シ方面ノ緩急ニ禦ルヲ任トス

第七條 鎮臺ノ司令官ハ平時ノ軍務人員ノ進退黜陟轉移選任ヨリ以テ會計經理ノ事ニ至ツテハ直チニ陸軍卿ニ隸シ其措置ヲ奉シテ管下ノ軍隊ヲ區分ス

ルヲ任トス故ニ軍令ニ關スル事ニ非サルヨリハ總テ陸軍卿ニ申請スルヲ例トス

第八條 各鎮臺ニハ步騎砲工輜重各種現役ノ兵隊ヲ置キ以テ寇賊ノ不虞ニ備ヘシメ師管ノ營所ニハ現役步兵一聯隊ヲ置キ以テ管内ヲ鎮靜シ草賊ニ備フ其他分營ハ逐年兵員ノ増加ニ從ヒ其配置ヲ定ム但現今若シ之ヲ要スルコトアルハ鎮臺若クハ師管營所ノ分遣隊ヲシテ分屯セシム

第九條 凡ソ六軍管ハ兩管相待テ各一監軍部ニ統轄ス第一及ヒ第二ハ東部ニ隸シ第三及ヒ第四ハ中部ニ隸シ第五及ヒ第六ハ西部ニ隸シ而シテ此三部ノ參謀部ト六鎮臺ノ參謀部トハ參謀本部ニ於テ管東

鎮臺條例



管西二局ト相通シ以テ全陸軍ノ經緯ヲ爲シ平時ニ在テハ彼是隔在スル諸隊ナシテ畫一ノ令ヲ守ラシム

第十條 凡ソ鎮臺下隸屬ノ法分營ハ師管ノ營所ニ隸シ師管ノ營所ハ軍管ノ鎮臺ニ隸スルヲ以テ軍令ノ行下報告ノ進呈ハ各其序ヲ逐フテ正例トナスト雖モ地勢彼此懸絶スルヲ以テ事務ニ關スル令報並ニ物品度支等ノ件ハ事宜ヲ權リ種別ノ方法ニ從フ

**監軍部**

第十一條 凡ソ三部ノ監軍中將ハ平時ニ在テ各其統轄スル兩軍管内現役後備各種兵隊ノ檢閲ニ任スルヲ以テ其巡回檢閲ニ方テハ各鎮臺ノ司令官其命令ニ遵服シ閱兵ヨリ他ノ試驗監視等ニ至ル迄悉ク其

覈察ニ供シ遺漏莫ラシム

第十二條 毎年定期ニ於テ監軍中將其部ヲ交換シテ巡回檢閲スル時ハ尉官拔擢名簿ハ司令官ヨリ下士以下ノ拔擢名簿ハ聯隊長ヨリ(獨立大隊ハ大隊長ヨリ)直ニ監軍中將ニ呈スヘシ

第十三條 監軍中將ハ其拔擢名簿ヲ受ケ檢閲終ルノ後自己ノ所見ニ從ヒ商評ヲ加期日ヲ定メ鎮臺司令官ト會同シ拔擢名簿稿本ヲ撰シ正副二本ヲ作り其一ハ鎮臺ニ止メ其一ハ監軍中將ヨリ陸軍卿ニ移ス

第十四條 凡ソ毎年歲終ニ陸軍卿參謀本部長並ニ近衛都督各軍管ノ司令官及ヒ省内各局長ヲ省内ニ會同セシメ猶各部ノ監軍中將ヲ會合シテ將校進級總

**鎮臺條例**



表ヲ撰定シ以テ次年拔擢進級ノ序ヲ定ム

要塞部

第十五條 凡ソ要塞ノ司令官ハ其軍管ノ司令官ニ隸

シ文移報告並ニ物品度支ノ諸項皆鎮臺ト往復ス可シ  
但別ニ規定スル者ハ此例ニ非ス

第十六條 凡ソ要塞衛戍部署ノ増減ヲ要スル時ハ其

司令官狀ヲ具シテ鎮臺司令官ニ呈シ鎮臺司令官ハ

之ヲ其監軍中將ニ呈シ中將ハ之ヲ參謀本部長ニ移

シ本部長ハ上裁ヲ取り之ヲ陸軍卿ニ移シテ行下ス

其兵員増減ハ監軍中將ノ掌ル所トシ每期更番ノ法

ノ如キハ全ク鎮臺司令官ノ掌ル所トス

第十七條 要塞衛戍ノ兵隊ハ要塞司令官ニ隸屬スル

ヲ以テ其要塞ノ周圍戰線内ニ於テ彼此ニ分駐スル

士官下士兵卒ハ要塞ノ司令官監視ヲ加ヘ若シ犯法  
ノ者アル時ハ速カニ停住ヲ命シ而シテ其隊ノ司令  
將校ニ報ス可シ

憲兵部

第十八條 凡ソ憲兵部ハ現今未ダ之ヲ置カスト雖モ

後來施設ニ及フ時ハ軍管ノ司令官ニ屬セス直ニ

其司令ヲ歷テ陸軍卿ニ隸ス

第十九條 憲兵部ハ軍管司令官ニ屬セスト雖モ重大

ノ事件起ル時ハ兩牒ヲ造リ本牒ヲ以テ陸軍卿ニ報

シ副牒ヲ以テ其駐スル地ノ軍管ノ司令官ニ進報ス

可シ

第二十條 其軍管ノ司令官ヨリ其地方ノ憲兵部ノ將

校ニ移牒シテ事情消息ヲ問フコトアレハ憲兵部ノ將

鎮臺條例



校仔細ヲ悉シテ應酬ス可シ又火急ノ事變ニ遭テハ  
軍管司令ノ命ヲ奉シ服事ス可シ

近衛

第廿一條 凡ソ軍管内近衛ノ兵隊在屯スル時一般ノ  
軍紀要塞ノ服役等其他世上ノ風紀ニ關涉スル事ニ  
就テハ鎮臺所營ノ兵隊ハ其助勢ヲ要ムルヲ得

第廿二條 凡東京ヲ除クノ外近衛ノ諸兵隊軍管内ニ  
屯駐スル時操練ノ爲メ便宜鎮臺ノ諸兵隊ト合シテ  
一ノ大操練ヲ催スヲ得

第廿三條 東京ニ於テノ操練ニハ參謀本部長上旨ヲ  
奉スルノ後之ヲ陸軍卿ニ移シ卿之ヲ東部ノ監軍中  
將及ヒ近衛都督ニ移ス而シテ監軍中將ハ之ヲ東京  
鎮臺ノ司令官ニ命シ共ニ施行スルモノトス

第廿四條 凡ソ近衛ノ兵隊ハ都督ノ前ニ在ラサレハ  
分列式ヲ行ハサルヲ正例トス然レモ近衛ノ一兵隊  
東京ノ外他方ノ衛戍ニ到ルコト有テ營所若クハ分營  
アル地ヲ過ル時近衛ノ隊長其營所司令官若シクハ  
分營屯駐ノ隊長ヨリ官等卑キ時ハ其營所司令官及  
ヒ分營ノ隊長ハ近衛隊ヲシテ分列式ヲ行ハシムル  
ヲ得

第廿五條 凡ソ近衛ノ兵隊東京ノ外他ノ管下ニ屯駐  
シ祭儀慶典ノ事有テ一般ノ閱兵ヲ催ス時ハ近衛ノ  
兵隊モ召集ニ應ス可シ此時ニ當ツテハ近衛ノ將校  
ニテモ鎮臺ノ將校ニテモ其官位ノ高下ト在任ノ新  
舊トヲ照シ第二等ニ當ル者ヲシテ諸隊ノ司令官ヲ

鎮臺條例



ラシムヘシ

府縣管

第廿六條 凡管内各府縣ノ政令並ニ改革創設ノ事件ニ就テハ知事令ヨリ其軍監司令官ニ之ヲ報知スヘシ  
シ渾テ世上ノ動靜ニ關涉スル事情アレハ知事令ヨリ詳細ノ報知ヲ爲スヘシ

裁判所

第廿七條 其管内所在ノ上等並ニ府縣裁判所ヨリモ亦改革創設ノ事件並ニ世上ノ動靜ニ關スル事情ハ司令官ニ對シ詳細ノ報知ヲ爲スヘシ

司令官本務

第廿八條 凡管内騷擾ノ警アリト雖モ事外國ニ關涉スル者ハ  
天皇宣戰ノ權ニ係ルヲ以テ設リニ一卒モ動カスヲ許サス但事火急ニシテ之ニ應セサルヲ得サル時ハ

守戰ノ形ヲ取り據証ヲ立テ急報スヘシ

第廿九條 凡管内草賊ノ警アレハ府縣ヨリ兩牒ヲ移シ同時ニ省並ニ臺ニ報シ臺又速ニ本管監軍部ヲ經由シ陸軍省並ニ參謀本部ニ報シテ區處ヲ受クヘシ  
シ鎮臺ノ司令官擅ニ兵ヲ出スヲ許サス

第卅條 上條ノ時ニ當リ事火急ニ起リ兵力ヲ要シ其府縣ノ知事令鎮臺ニ移牒シテ出兵ヲ請フ時ハ之ニ應シ時宜衆寡ヲ量リ兵ヲ出ス事ヲ許ス

第卅一條 凡草賊ノ警聞アリ其事情測リ難キ事アル時ハ鎮臺ノ司令官其地方ノ知事令ト相議シ參謀部ノ將校ヲ遣シ或ハ其地方ノ營所若クハ要塞ノ司令官ニ命シテ情狀ヲ探偵セシメ其原由並ニ目下ノ

鎮臺條例



形勢人數ノ多寡等ヲ知悉シテ逐一ニ記載シ要スル所ノ兵數施ス可キ策略ヲ書シ密封ヲ以テ監軍部ヲ經由シ陸軍省並ニ參謀本部ニ申報スヘシ

第卅二條 凡ソ軍管內府縣ノ山野等ニ強盜悍賊アリ拿捕地方警察部ノ力ニ能ハスシ兵力ヲ要スル時ハ其知事令東京ニ在テハ警視長官ノ請ニ應シ捕獲ノ方略ニ於テ力ヲ併スヲ得可シ

第卅三條 變災若シハ他ノ事故アリ警護ノ爲メ兵備ヲ要シ其地方ノ知事令ヨリ事由ヲ具シテ之ヲ請フ時ハ之ニ應シ事情ヲ斟酌シテ事ニ從フ可シ

第卅四條 凡前數條ニ舉ル所事緩ニシテ往復ノ時間アル時ハ必ス先ツ陸軍省及監軍部ニ申報ス可シ且

警護ノ兵ヲ出スヲ後例トナルニ係ル者必ス卿ノ區處ヲ受クルノ後ニ非レハ服事スルヲ許サス然レモ臨時若クハ急遽ノ際ニ出ル時ハ服事スルノ後速ニ陸軍省及ヒ監軍部ニ申報スルヲ許ス

第卅五條 凡ソ朝儀祭典及讌禮等ニテ警備或ハ觀兵ノ爲メニ兵隊ヲ要シ該事ニ係ル衙門ヨリ事由ヲ具シテ之ヲ請フ時ハ之ニ應スルヲ許ス其部署布置ノ方法ハ總テ司令官ノ任タリ但此等ノ時ニ當リ率テ卿ヨリ監軍部ヲ經由シ下令アルヲ正例トス唯遠隔ノ地ニシテ下令ノ直チニ達セサルモノハ便チ此例ニ從フ可シ

第卅六條 凡ソ至重ノ罪囚ヲ送り又ハ彈藥糧食等ヲ



輸送シ或ハ外國人ノ旅行等ニ護送ノ兵ヲ要スル時  
ハ該事ニ係ル衙門ノ請求ニ依リ一部ノ兵ヲ出シ護  
送ニ供スルヲ許ス但月報ヲ以テ其事件ヲ陸軍省ニ  
申告シ且本管監軍部ニモ申告ス可シ

第卅七條 凡ソ屯營ノ轉移兵隊ノ進退ハ卿ノ區處ヲ  
受クルニ非ラサレハ司令官設リニ之ヲ處分スルヲ  
許サス又軍伍編制及ヒ内外務等ハ陸軍省領布スル  
所ノ成則ヲ遵守シテ變更スルヲ許サス

第卅八條 其屯營變災若クハ他ノ事故ニ由テ一時轉  
モサルヲ得サル時ハ地方ノ知事令ニ牒シ近隣ノ地  
ニ於テ便宜ノ場所屋舎ヲ選ヒ仮リニ轉移シ急報ヲ  
以テ陸軍省ニ申告シ卿ノ區處ヲ受ク可シ但其報中

目下ノ事情向來ノ便宜ヲ繼陳スルヲ要ス

第卅九條 其營傍延燒ノ時ハ司令官速ニ近傍場地ニ  
兵隊ヲ整列セシメ人員ヲ量リ防火ニ從事セシムル  
等時ニ依リ權宜ヲ制シ勉メテ兵隊ノ混沓ヲ防ク可  
シ

第四十條 凡ソ管下諸兵隊軍伍隊列ノ編制若クハ内  
外務ニ於テ一時ノ事情ニ因リ若クハ地方ノ便宜ニ  
由テ一二ノ變更ヲ要スル時ハ詳カニ事由ヲ繼陳シ  
監軍部ヲ經由シ陸軍省ニ上申ス可シ

第四十一條 管下諸兵隊日課ノ操練ハ豫定ノ場地ノ  
外設リニ他ノ場地ニ於テスルヲ許サス若シ實彈試  
發野營操練等ノ舉ニ就テ一定ノ場地ナキ時ハ鎮臺



ニテ一地ヲ選定シ所轄ノ府縣ニ請フテ便宜ヲ議定シ監軍部ヲ經由シ陸軍省ニ申報シ卿ノ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 凡ソ軍人軍屬ノ犯罪律ニ屬ス可キ者ハ東京ヲ除クノ外成規ヲ照シ軍法會議ヲ開キ律ニ於テ治斷セシムヘシ但シ東京ニ在リテハ輕重ニ拘ハラス陸軍裁判所ニ送附スヘシ

第四十三條 凡ソ隊中逃亡アル時ハ該隊ノ長同伍若クハ他ノ數人ニ命シ踪跡ヲ捕縛セシム可シ若シ能ハサレハ事由ヲ開具シ臺ニ報知シ臺ヨリ其本管ノ府縣ニ移牒シテ捕縛スヘキ手續ヲナシ置キ月報ヲ以テ陸軍省ニ申報ス可シ

第四十四條 凡ソ諸隊ヨリ呈スル定例ノ報告ハ一本ヲ臺ニ留メ一本ハ定規ニ從ヒ陸軍省若クハ監軍部ニ移ス可シ

第四十五條 凡ソ管下諸隊定例報告ノ外鎮臺ノ司令官ヨリ三ヶ月ノ初毎ニ監軍部ヲ經由シ陸軍省へ管内諸隊ノ景況ヲ縷陳スル報告ヲ爲スヘシ其報告ハ次ノ款々ヲ開列スルヲ要ス

- 第一 軍中ノ士氣兵法並ニ政令ニ關涉スル利害
- 第二 兵隊軍紀ノ張弛定規遵奉ノ程度
- 第三 衛戍若クハ分屯ニ在ル兵隊ノ舉動
- 第四 諸兵隊其他ノ住民ト相關涉スル情狀
- 第五 疾病健康ノ善惡操練ノ精粗

鎮臺條例



第六 司令官自己ノ意見並ニ改正ノ目的方略

第七 無隊將校服職ノ景況

第四十六條 凡ソ管下ノ屯營病院囚獄若クハ其ノ庖廚又其他ノ廨舎ニ於テモ司令官時々巡廻シ部下兵隊ノ爲メニ便利ニシテ妨碍ナキヤチ監視スヘシ

第四十七條 凡屯營病院等物品需要ノ項ハ該臺監督部ニ令シ例規ニ照シ其求メニ應セシメ又屯營等修繕諸工事ハ該臺交渉ノ工兵方面ヨリ之ヲ受ケ武器並ニ彈藥等ノ支給ハ交渉ノ砲兵方面内本廠若クハ支廠ヨリ之ヲ取ルヲ得ルモノトス但豫メ陸軍省ニ牒告シ陸軍卿ノ許可ヲ請フヘシ

第四十八條 凡ソ鎮臺司令官ハ毎年陸軍卿ノ命ヲ受

ケ其管下懲兵ノ事務ヲ管掌スヘシ

第四十九條 陸軍卿並ニ該管ノ監軍中將ヨリ平常鎮臺ノ司令官ヘ下令スル條款ハ左ノ如シ

第一 人員ノ轉任就職免職差役等ノ項ニ就テ下令ノ事「右將校ニ係ル下令ハ監軍中將ヲ經由シ鎮臺司令官ニ下シ隊中下士兵卒ニ係ル令ハ直ニ該臺司令官ニ下ス」

第二 兵隊動靜ノ下令並ニ諭旨「右監軍中將ヲ經由シ之レヲ下ラス」

第三 兵隊ノ編制並ニ就役ノ下令「右監軍中將ヲ經由シ之ヲ下シ亦諭旨ヲ付シテ詳備ヲ盡ス者タリ」

第四 徵兵並ニ入兵後備軍調馬軍法學校會計等ノ



事務ニ就テ下令「右陸軍卿ヨリ直チニ該臺司令官ニ下ス」

第五十條 凡ソ鎮臺ノ司令官新ニ拜命スル時若クハ拜命ノ後初メテ鎮臺ヘ赴ク時ハ左ノ禮款ヲ受クルノ特典ヲ得但他ノ時ニ於テ陸軍卿ノ特命ニ非ラサレハ行フヲ得ス

第一 祝砲

第二 儀仗騎兵一大隊(但騎兵ヲ置サル鎮臺ニハ歩兵一大隊ヲ用フ鎮臺ノ在ル府縣廓外ヨリ十町ノ地マテ旗章音樂ヲ具ヘ隊長之ヲ率ヒテ迎送ス)

第三 要塞司令官出迎(其地ノ廓外マテ)

第四 隊下兵隊出迎(臺下簡駐ノ諸兵隊並ニ衛戍ノ

諸兵隊ハ經過遞次ニ於テ横隊ニ列ス)

第五 將校伺候(皆正服ニテ參臺スヘシ)

第六 鎮臺ヲ置ク府縣ノ知事令及書記官トハ到着ノ日ヨリ三日内互ニ存問スヘシ(但官等卑キ者ヨリ先ツヘシ)

第七 其鎮臺ニテ管轄スル府縣ノ知事令書記官ト

ハ三十日内互ニ移文シテ存問スヘシ(但同上)

第八 管内所在ノ上等並ニ府縣裁判所ノ長トハ互ニ僚屬ヲ遣リ存問スヘシ(但同上)

第五十一條 凡ソ鎮臺ノ司令官初メテ臺下諸兵隊ノ檢閲若クハ管内ヲ巡行シ管下兵隊ノ檢閲ヲ行フキハ勅ヲ奉シ其諸兵隊ニ酒賜



第五十二條 凡シ鎮臺下並ニ管内營所諸隊ノ司令官  
ハ定例ノ期毎ニ部下兵隊ノ病疾健康服役(勤惰等)軍  
死(賞罰等)操練ノ事ニ就テ所轄ノ司令官ニ之レヲ通  
報シ又隊中庶務ニ就テハ其時々報告シテ命令ヲ受  
クヘシ

第五十三條 其ノ部下兵隊ノ便宜兵卒ノ生計等ノ事  
或ハ一隊ニ渉ルモ或ハ一人ノ身上ニ係ルモ總テ經  
理會計ノ事ニ係ル愁訴ハ該隊長查確シテ其實ヲ得  
ハ鎮臺ノ司令官ニ申告シ該會計部ニ移シテ處置ヲ  
請フ可シ

但士官下士兵卒トモ其所轄ノ長官ニ據ラヌシテ  
生計等ノ事ヲ申告スルヲ許サス

第五十四條 凡管内營所ニ分營ノ兵隊ハ總テ臺下ノ  
兵隊ニ異ナルコトナシ唯地方ノ騷擾事非常ニ渉ル者  
ハ營所司令官若クハ各兵隊長便宜ヲ量リ鎮臺及ヒ  
監軍部陸軍省ニ對シ一時ニ其ノ事情ヲ報告スヘシ  
第五十五條 凡シ各鎮臺ノ間一管内ニ非常ノ事變ア  
ル時陸軍省及ヒ監軍部ニ報告スルノ外互ニ相通報  
遞聞ス可シ

但仙臺鎮臺ハ獨リ東邊ニ在テ他ノ鎮臺ト隔絶シ  
其間ニ陸軍省及監軍部アルヲ以テ此例ニアラス

○金祿公債証書發行條例  
乾卷四百四十三丁附錄五ノ卷百十八丁同  
六ノ卷百丁附錄七ノ卷百二十五丁參看

金祿公債証書發行條例



(參考) 明治十二年十一月十三日內務大藏  
連署乙第四十二號ヲ以テ府縣へ達

明治十一年九月九日內務大藏兩省布達金祿公債証書  
保護手續第二條及第三條中買上ニ關スル件ハ總テ  
本年十二月限り廢止候條此段金祿公債証書相渡候者  
へ可及布達此旨相達候事

(參考) 明治十二年十一月廿日大藏省  
乙第四十四號ヲ以テ府縣へ達

本年乙第四十二號ヲ以金祿公債証書買上ノ儀本年十  
二月限相廢止候ニ付テハ右代金受取方及決算ノ期限  
左ノ通可相心得此旨相達候事  
本年十二月迄ニ買上方願出タル公債証書ノ代金ハ來

ル十三年一月十日迄ニ府縣地發遞受取方申出へシ  
右購収セシ公債証書ハ十三年一月十五日限り府縣地  
ヲ發遞國債局へ送付ス可シ若シ同日迄ニ發遞難致モ  
ノハ其事由ヲ申出可シ  
右購収公債証書國債局へ到達ノ日ヨリ一週間ノ内ニ  
丙號ヲ送付スへシ該丙號其地へ到達ノ日ヨリ五日間  
ニ結尾ノ勘定帳ヲ整備シ其地ヲ發遞國債局へ差出ス  
へシ  
本年十一月十二月兩月中買上願出タル公債証書ノ總  
額ニ種類ヲ區分シ右翌月五日限り電信ヲ以テ國債局  
へ報告ス可シ



(參考) 明治十二年十一月廿日東京府甲第一百十六號ヲ以テ布達

明治十一年九月九日內務大藏兩省布達金祿公債証書保護手續第二條及ヒ第三條中金祿公債証書買上ニ關スル件ハ總テ本年十二月限り被廢止候條金祿公債証書被相渡候者へ布達候事

(參考) 明治十二年十月太政官ヨリ內務省へ達

華族從三位尙泰へ一割利付金祿公債証書二十萬圓下賜候條此旨可相心得事

(參考) 明治十二年七月十四日大藏省甲第七十五號ヲ以達

三重縣士族勝失榮藏所有ノ金祿公債証書十圓丙支 (自六八七〇至六八七三) 四枚右紛失

(例文畧ス)

(參考) 明治十二年七月十一日大藏省書記官ヨリ正誤

本年七月當省甲第七十號布達文中本月八日トアルハ去月八日ノ誤

(參考) 明治十二年七月三十日大藏省甲第七十七號布達

起業公債証書無記名百圓第五號六一三四番一枚同百圓第五號六一三五番一枚近江國甲賀郡岩室村共有同

金祿公債証書發行條例



五十圓第三號六七四七番一枚同村西出利兵衛所有同  
五十圓第三號六七四八番一枚同村山口六兵衛所有  
右本年七月七日該村役場ニ於テ盜取ラレ候旨

(例文略ス)

(參考) 明治十二年七月卅一日大  
藏省甲第七十八號布達

金祿公債証書

百圓 丙ハ 八七七八  
八七七九  
自三三二二一  
至三三二二四 二枚  
十圓 丙亥 四枚

右ハ愛知縣士族柳山儀助所有ノ分本年五月廿一日紛  
失ノ旨及布達置候處今般發見候條此旨更ニ布達候事

(參考) 明治十二年七月卅一日大  
藏省甲第七十九號布達

金祿公債証書

十圓 丙な 七三五九番 一枚

右ハ島根縣士族岡村佐次郎所有ノ處紛失ノ旨本月一  
日届出

(例文略ス)

(參考) 明治十二年八月二日大  
藏省甲第八十號布達

金祿公債証書

百圓 丙た 七七七八番 一枚  
十圓 丙あ 五七七八番 一枚

金祿公債証書發行條例



右ハ山縣縣士族今并半兵衛所有ノ分紛失ノ旨及布達  
置候處今般發見候條此旨更ニ布達候事

(參考) 明治十二年八月四日大  
藏省甲第八十一號布達

金祿公債證書

百圓	丁イ	五四八四	一枚
五十圓	丁イ	三六五五	一枚
十圓	丁ハ	八〇一八	一枚

右ハ鹿兒島縣士族草野善藏所有ノ處本年六月二十一日被盜取候段届出候條以後右種類ノ證書一切取引ヲ爲スヘカラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳ヘ訴出管轄廳ヨリハ即當省ヘ可届出此旨布達候事

(參考) 明治十二年八月四日大  
藏省甲第八十二號布達

金祿公債證書

三百圓	丙ワ	四五六	一枚
百圓	丙ノ	一一六五	一枚
五十圓	丙ワ	六八〇	一枚
十圓	丙イぬ	七五五三	二枚

右ハ鹿兒島縣士族黒木卯袈裟所有ノ分本年六月八日紛失ノ旨及布達置候處今般發見候條此旨更ニ布達候事

(參考) 明治十二年八月六日大  
藏省甲第八十三號布達

金祿公債証書發行條例



金祿公債證書

二十五圓	丙ぬ	八一三	一枚	愛知縣士族
十圓	丙め	八九五五 八九五六	二枚	小林久太郎
右ハ	容年十一月四日	神奈川縣下橫濱表ニ於テ	遺失	
三百圓	丙を	六一四二	一枚	高知縣士族
百圓	丙う	五〇九七	一枚	前田勝衛
五十圓	丙を	五二〇九	一枚	同
二十五圓	丙わ	一五二四	一枚	同
十圓	丙いぬ	六九八 六九九	二枚	同
右ハ	本年七月九日	阿波國富田町自宅ニ於テ	盜難	

前書ノ通届出候條以後右種類記名ノ證書一切取引カ  
爲スヘカラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳へ訴出  
管轄廳ヨリハ即當省へ可届出此旨布達候事

(参考) 明治十二年八月十八日大藏省甲第八十四號布達

金祿公債證書

百圓	丙ぬ	二三八七	一枚	
五十圓	丙ほ	四九七	一枚	
右ハ	福島縣士族青田敦陳所有ノ處	本年四月七日紛失		
ノ旨	届出候條以後右種類ノ證書一切取引ヲ爲スヘカ			
ラス	且其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳へ訴出			
リハ	即當省へ可届出此旨布達候事			

金祿公債證書發行條例



(參考) 明治十二年八月十八日大藏省甲第十五號布達

金祿公債證書

三百圓

丙い

一〇九一

一枚

百圓

丙い

二五二八

二枚

右ハ兵庫縣士族林金秋所有ノ處本月一日於自宅被盜取候段届出候條以後右種類ノ證書一切取引ヲ爲スベカラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳へ訴出管轄廳ヨリハ即當省へ可届出此旨布達候事

(參考) 明治十二年八月二十八日大藏省甲第八十六號布達

金祿公債證書

百圓

丙い

五二二一

二枚

十圓

丙ろ

三三五八

一枚

右ハ兵庫縣士族駒崎秀喬所有之分裏面へ三井銀行神戸分店支配人淺井文右衛門へ讓渡ノ積記名調印有之候處被盜取候段届出候條以後右ノ證書一切取引ヲ爲スベカラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳へ可訴出管轄廳ヨリハ即當省へ可届出此旨布達候事

(參考) 明治十二年九月四日大藏省甲第八十七號達

金祿公債證書

千圓

乙い

一七八八

一枚

同

同

自一七九〇至一七九二

三枚

右ハ東京府士族秋山正永所有ノ分銀行へ可預爲メ同

金祿公債証書發行條例



府下平民櫻井彌三郎へ相渡候處同人逃亡ノ由ニテ右  
證書所在不分明ノ趣届出候條以後一切取引ヲ爲スヘ  
カラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳へ訴出管轄廳  
ニリハ即當省へ可届出此旨布達候事

(参考) 明治十二年九月十三日大  
藏省甲第八十八號布達

金祿公債証書

五百圓	丙ろ	五二六 九四一	二枚	東京府士族 矢部直高
廿五圓	丙ろ	一六〇七	一枚	同 名
十圓	丙へ	五三六七	一枚	同 名

右ハ本年八月廿五日駒込曙町途中於テ被奪取

長野縣士族

二枚 竹藤仙藏

百圓	丙な	四九七三 四九七四	二枚	同 名
十圓	丙す	自一八九六 至一八九九	四枚	同 名

右ハ本年七月十一日盜難

前書ノ通届出候條以後右種類記名ノ証書一切取引ヲ  
爲スヘカラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳へ訴出  
管轄廳ヨリハ即當省へ可届出此旨布達候事

(参考) 明治十二年九月十六日大  
藏省甲第八十九號布達

金祿公債証書

廿五圓	丙る	八三三二	一枚	同 名
十圓	丙す	自七六七三 至七六七六	四枚	同 名

金祿公債証書發行條例



右ハ長崎縣士族荒木鹿六所有ノ處本年二月三十日被盜取候旨及布達置候處今般發見候條此旨更ニ布達候事

(參考) 明治十二年九月十六日  
大藏省甲第九十號布達

金祿公債証書

三百圓 丙リ 八八七八 一枚

右者岐阜縣士族井上爲繼所有ノ分同縣士族清水雄次郎方ニ於テ紛失ノ旨届出候條以後右ノ証書一切取引ヲ爲スヘカラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳ニ訴出管轄廳ヨリハ即當省ニ可届出此旨布達候事

(參考) 明治十二年九月廿四日大  
藏省甲第九十一號布達

金祿公債証書

十圓 丙ト 七三三〇 一枚 東京府士族 瀬田周吉

右ハ本月七日同府下飯塚新七方ニ於テ盜難

新潟縣平民

五十圓 丙ニ 五四九九 一枚 松原彌惣

同

十圓 丙レ 自一五七八 三枚 松原佐吉  
至一五八〇

右ハ本年八月廿七日同縣下高田ヨリ石澤村迄ノ間

途中遺失

前書ノ通届出候條以後右種類記名ノ証書一切取引ヲ

金祿公債証書發行條例



爲スヘカラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳へ可訴  
出管轄廳ヨリハ即當省へ可届出此旨布達候事

(参考) 明治十二年九月廿四日大  
藏省甲第九十二號布達

金祿公債証書

八四〇五

十 圓

丙

八四〇七

三枚

八四〇八

右ハ東京府下寄留三重縣士族松平定孝所有ノ處本月  
四日途中ニ於テ遺失ノ旨届出候條以後右証書一切取  
引ヲ爲スヘカラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳へ  
訴出管轄廳ヨリハ即當省へ可届出此旨布達候事

(参考) 明治十二年九月廿七日大  
藏省甲第九十四號布達

金祿公債証書

兵庫縣士族

五十圓

丙

一七八三

一枚

俵塚勸次郎

十 圓

丙

八九二六

一枚

同 名

右ハ本年八月三十日盜難

愛媛縣平民

百 圓

丙

八一九九

一枚

井原福次郎

右ハ本年八月廿六日盜難

東京府士族

五百圓

丙

四五四六

一枚

福島正發

三百圓

丙

六七五

一枚

同 名

金祿公債証書發行條例



十圓 丙と 自二八二六 至二八二九 四枚 同 名

右ハ東京府下平民櫻井彌三郎ハ預置候處本年六月中  
彌三郎失踪証書所在不分明  
前書ノ通届出候條以後右種類記名ノ証書一切取引ヲ  
爲ス可カラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳ニ訴出  
管轄廳ヨリハ即當省ニ可届出此旨布達候事

(参考) 明治十二年十月二日大  
藏省甲第九十五號達

金祿公債証書

千圓 乙い 一七八八 一枚 東京府士族  
同 同 自一七九 一枚 秋山正永  
至一七九二 三枚 同

右者東京府下平民櫻井彌三郎ハ渡置候處同人逃亡ニ  
付証書所在不分明ノ分

拾圓 丙と 七三三〇 一枚 同 瀬田周吉  
右者去月七日同府下飯塚新七方ニ於テ盜難ノ分  
前書ノ通及布達置候處今般發見ノ旨届出候條此旨更  
ニ布達候事

(参考) 明治十二年十月三日大  
藏省甲第九十六號布達

金祿公債証書

千圓 乙い 三九八一 一枚  
百圓 乙い 二七八五 一枚  
百圓 乙い 二七八六 二枚

金祿公債証書發行條例



廿五圓 乙シ 一三五三 一枚  
 十圓 乙ろ 六七二 二枚  
 右ハ廣島縣士族近藤忠彦記名  
 右發見

(例文畧ス)

(參考) 明治十二年十月三日大藏省甲第九十七號布達

金祿公債証書

五百圓 丙ろ 四五四六 一枚  
 三百圓 丙よ 六七五 一枚  
 十圓 丙と 自二八二六至二八二九 四枚  
 右ハ東京府士族福島正發記名

右發見

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十月六日大藏省甲第九十八號布達

金祿公債証書

三百圓 丙と 六四九九 一枚  
 廿五圓 丙は 二八八〇 一枚  
 十圓 丙る 四九九七 二枚  
 右ハ廣島縣士族俵興一所存

金祿公債証書發行條例

三百圓 丙と 六七四四 一枚  
 廿五圓 丙は 三二二五 一枚  
 十圓 丙る 五四八七 二枚



右ハ同上士族松本彰所有ノ處本年九月六日俵興一方ニ於テ被盜取候段届出候條

(例文略ス)

(参考) 明治十二年十月七日  
大藏省甲第百號布達

金祿公債証書

廿五圓 丁ろ 二七三五 一枚

十圓 丁へ 六三三五 二枚

右ハ鹿兒島縣士族栗原市郎八所有ノ處本年六月廿五日以降不詳被盜取候段届出候條

(例文略ス)

(参考) 明治十二年十月十日  
大藏省甲第百二號布達

金祿公債証書

拾圓 丙す 自四二〇六 長崎縣士族  
至四二〇八 三枚 豊永密治

右盜難ニ罹ル

(例文略ス)

(参考) 明治十二年十一月十一日  
大藏省甲第百三號布達

金祿公債証書

百圓 丁い 五四八四 一枚 鹿兒島縣士族  
草野善藏

五十圓 丁い 三六五五 一枚 同 名

金祿公債証書發行條例



拾圓 丁は 八〇一八 一枚

右盗難ニ罹ル處發見

(例文略ス)

(参考) 明治十二年十月十六日  
大藏省甲第四百四號布達

金祿公債証書

五十圓 丙と 八四四八 一枚

愛媛縣士族  
中村とよ

右年月不詳於自宅盗難ニ罹ル

(例文略ス)

(参考) 明治十二年十月廿二日  
大藏省甲第四百五號布達

金祿公債証書



三百圓 丙り 八八七八 一枚 岐阜縣士族  
井上爲繼

右紛失

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十月卅一日  
大藏省甲第百六號布達

金錄公債証書

五百圓	丙い	四七八二	一枚	青森縣士族
三百圓	丙い	四八二三	一枚	成田さん
百圓	丙い	八五七七	一枚	同
十圓	丙い	自二八壹二 至二八壹五	四枚	同

金錄公債証書發行條例



右ハ本年九月三十日ヨリ十月一日迄ノ間紛失

十圓 丙ち 壹五三七 二枚 神奈川縣士族 志村包高

十圓 丙ち 壹五三八 同

十圓 丙ち 壹八五八 二枚 志村重次郎

壹八五九

右ハ本年九月廿八日ヨリ十月二日マテノ間盜難

長崎縣士族

千圓 乙ろ 六六九三 一枚 北條新三郎

三重縣士族

五百圓 丙へ 四五二 一枚 酒井秀雄

百圓 丙は 八四五二 二枚

廿五圓 丙と 八四五二 一枚

十圓 丙ま 五〇〇壹 一枚

自八六二七 至八六三〇

四枚 同

七年發行秩祿公債証書

百圓 丙ほ 自三九七三 至三九七八 三枚 同

五十圓 丙は 三三六一 至三三六二 三枚 同

廿五圓 丙ま 自六四五 至六五〇 四枚 同

右ハ本年十月十三日東京府下酒井秀雄宅於テ盜難

(例文略ス)

(参考) 明治十二年十月卅一日 大藏省甲第百七號布達

金祿公債証書

長崎縣士族

百圓 丙な 四九七三 四九七四 二枚 竹藤仙藏

十圓 丙す 自一八九六 至一八九九 四枚 同

金祿公債証書發行條例



右ハ本年七月十一日盜難ニ罹ル處發見

(參考) 明治十二年十一月七日  
大藏省甲第八號布達

高知縣士族澤邦吉所有ノ金祿公債証書

五百圓 丙 五六七四 一枚

五十圓 丙を 四三三五 一枚

廿五圓 丙わ 九九八 一枚

十圓 丙より 自六六三六  
至六六三八 三枚

右盜難

(例文畧ス)

(參考) 明治十二年十一月十三日  
大藏省甲第九號布達

新潟縣士族森澤平次金祿公債証書

百圓 丙り 四〇六九 一枚

全上林加藤太

三百圓 丙ほ 一三六五 一枚

百圓 丙り 三七六五 一枚

全本庄三之助

三百圓 丙ほ 一四一九 一枚

右紛失

島根縣士族長谷川保次郎

十圓 丙な 自六九九  
至七〇一 三枚

右所在不分明

大分縣士族伊藤數平

金祿公債証書發行條例



百圓 丙九 七八九〇 一枚

右紛失 (例文零ス)

(参考) 明治十二年十一月十四日  
大藏省甲第百十號布達

石川縣士族岩佐平造所有ノ金祿公債証書

五百圓	丙 <small>よ</small>	六六八〇	一枚
三百圓	丙 <small>よ</small>	五〇三九	一枚
五十圓	丙 <small>よ</small>	一九〇三	一枚

右盜難

(例文零ス)

(参考) 明治十二年十一月十四日  
大藏省甲第百十一號布達

金祿公債証書

五百圓	丙 <small>い</small>	四七八二	一枚
三百圓	丙 <small>い</small>	四八二三	一枚
百圓	丙 <small>い</small>	八五七七	一枚
十圓	丙 <small>な</small>	自二八一二 至二八二五	四枚

右ハ青森縣士族成田きん所有ノ分紛失ノ旨本年十月  
卅一日及布達候處今般發見候條此旨更ニ布達候事

(参考) 明治十二年十一月十八日大藏  
省甲第百十二號ヲ以テ布達

金祿公債証書

百圓 丙か 八一九九 一枚

金祿公債証書發行條例



右、愛媛縣平民井原福次郎所有ノ分盜難ニ罹候段本年九月廿七日甲第九十四號ヲ以テ及布達置候處今般發見候條此旨更ニ布達候事

(參考) 明治十二年十一月十九日  
大藏省甲第一百十三號布達

金祿公債証書

新潟縣平民

五十圓 丙 五四九九 一枚 松原彌惣

拾圓 丙 自一五七八 三枚 松原佐吉

右、本年九月廿四日甲第九十一號ヲ以遺失ノ旨及布達置候處今般發見候條此旨更ニ布達候事



(参考) 明治十二年十一月廿二日  
大藏省甲第百十四號布達  
七年發行秩祿公債証書

廿五圓 一三八五  
一三八六 二枚 三重縣士族  
桑名藤馬  
右ハ大坂府下ニ於テ愛知縣下名古屋新道町保井雄二  
〜預ケ中同人行衛不相分該証書所在不分明ノ旨届出  
候條

(例文略ス)

(参考) 明治十二年十一月廿二日  
大藏省甲第百十五號布達

金祿公債証書

百圓 丙 四八六七 一枚

金祿公債証書發行條例



右、山口縣士族兼國慶藏所有ノ處本年七月廿六日以  
降紛失ノ旨届出候條

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十一月廿二日大藏  
省甲第百十六號布達

金祿公債証書

山口縣士族

五百圓	丙ち	六八〇參	一枚	原田方輔
三百圓	丙る	六二二九	一枚	同
拾圓	丙い	自三二四五 至三二四七	三枚	同
五百圓	丙ち	七五九五	一枚	同
百圓	丙ら	五四九九	二枚	同
廿五圓	丙を	一七〇七	一枚	同

舊公債証書

五十圓

二四一四

一枚

同 大多和通輔

右種類記名ノ証書原田方輔宅於テ本年八月廿三日以  
降紛失ノ旨届出候條

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十一月廿二日  
大藏省甲第百十七號布達

金祿公債証書

百圓	丙ぬ	二三八七	一枚
五十圓	丙ほ	四九七	一枚

右、福島縣士族青田敦陳所有ノ處紛失ノ旨本年八月

金祿公債証書發行條例



十八日甲第八十四號之以及布達置候處今般發見候  
條此旨更ニ布達候事

(參考) 明治十二年十一月廿七日  
大藏省甲第一百八十八號布達

八年發行秩祿公債証書

東京府下寄留  
兵庫縣士族

三百圓 七八九九 一枚 本山勝馬

五十圓 九〇八三 一枚 同 名

右ハ東京府下寄留高知縣平民間盛四郎ハ預ク中同人  
失踪ニテ該証所在不知旨届出候條

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十一月廿八日  
大藏省甲第一百十九號布達

金祿公債証書

五百圓 丙 五〇二五 二枚

三百圓 丙 自四三三一 三枚 四三二六 四三參四

四參參一 四三三〇 四枚

百圓 丙 自四一一九 三枚 四〇八七 四一二四

四二二八 三枚

五十圓 丙 壹一四九 壹一五二 壹一五參 壹一五六

四枚

廿五圓 丙 自一九參七 三枚 壹九壹九 壹九四二

至壹九參九

壹九四四 壹九二八 四枚

金祿公債証書發行條例



拾圓 丙へ 自三三四九 七枚 自參二九七 三枚  
至三三五五 至參二九九

參二七七 參二七八 參參五八 參參六二 參參六六 六枚

右ハ福島縣下於テ第四十四國立銀行岩橋輔輔買取同人記名同縣廳檢印濟東京へ携帶ノ途中本年十月廿八日椽木縣下宇都宮驛於テ盜難

東京府士族

百圓 丙に 二七六五 一枚 中村由承

同

三百圓 丙を 參參五六 一枚 伊丹成行

右ハ東京府下金吹町阿部保へ預ケ中同人失踪證書所在不明

前書ノ通届出候條

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十一月廿八日  
大藏省甲第百二十號布達

金祿公債証書

五百圓 丙ち 壹一八九 一枚

三百圓 丙ぬ 八四六五 一枚

百圓 丙ね 五四壹四 一枚

廿五圓 丙ね 七八二九 一枚

右ハ福岡縣士族熊井作太郎所有ノ處本年四月中被欺取候旨今般届出候條

(例文略ス)

金祿公債証書發行條例



(參考) 明治十二年十一月廿八日  
大藏省甲第百廿一號布達

金祿公債証書

拾圓

丙七

自四二〇六  
至四二〇八

三枚

右長野縣士族豐永密治記名ノ分盜難ニ罹リ候段本年  
十月十日甲第百二號ヲ以テ及布達置候處今般發見候  
條此旨更ニ布達候事

(參考) 明治十二年十月廿一日  
大藏省乙第三十九號達

明治十一年十月乙第四十九號ヲ以テ相達候金祿公債証  
書賣買届出見合期限内買上証書ニ屬スル利金ハ十二  
年十一月渡分ヨリ國債局へ返附ニ不及同年十一月乙第  
五十七號達ノ通相心得東京府廳へ送附可致尤利札還



納等ノ儀ハ買上取計候所轉廳於テ可遂決算此旨相達候事

(參考) 明治十二年十一月十三日大藏省(内務卿)乙第四十二號ヲ以テ府縣へ達(連名)

明治十一年九月九日内務大藏兩省布達金祿公債証書保護手續第二條及ヒ第三條中買上ニ關スル件ハ總テ本年十二月限相廢止候條此段金祿公債証書相渡候者へ可及布達此旨相達候事

(參考) 明治十二年九月東京府甲第八十三號布達

金祿公債証書

内譯

千圓

乙以號

壹七八八番壹七八九〇番  
壹七九壹番壹七九貳番

金祿公債証書發行條例



右ハ當府士族秋山正永所有ノ處日本橋區坂本町十八番地櫻井彌三郎ハ渡置候末同人儀本年六月卅日失踪爾來証書所在相知ノス  
金祿公債証書千三十五圓

内譯

- 五百圓 丙拾號 五貳六番 二枚
- 貳拾五圓 丙拾號 九四壹番 壹枚
- 拾圓 丙拾號 壹六〇七番 壹枚
- 拾圓 丙拾號 五三六七番 壹枚

右ハ當府士族矢部直亮所有之處本年八月廿五日午後九時同人妻さやう持參之途中本郷區駒込曙町五番地ニ於テ奪取ラレ候  
前書ノ通届出候條以後右証書一切取引ヲ爲ス可ラズ

且所在見聞ノ者ハ速ニ届出ヘシ此旨布達候事

(參考) 明治十二年九月一日東京府甲第八十三號布達

金祿公債証書四千圓

内譯

- 千圓 乙五號 一七八八番 四枚
- 千圓 乙五號 一七九一番
- 千圓 乙五號 一七九〇番
- 千圓 乙五號 一七九二番

右者當府士族秋山正永所有ノ處日本橋區坂本町十八番地櫻井彌三郎ハ渡置候末同人儀本年六月三十日失踪爾來該証書所在相知ノス

(參考) 明治十二年九月五日東京府甲第八十五號布達

金祿公債証書

金祿公債証書發行條例



百圓 丙<sub>2</sub>號 五九四一番 一枚  
百圓 丙<sub>2</sub>號 七七三三番 一枚

右、府下寄留靜岡縣士族櫻井六藏所有、處日本橋區坂本町十八番地櫻井彌三郎へ預け置候末同人本年六月三十日失踪爾來該証書所在相知レズ

五百圓 丙<sub>1</sub>號 七二〇四番 一枚

三百圓 丙<sub>3</sub>號 二一〇五番 一枚

五十圓 丙<sub>3</sub>號 三八八番 一枚

廿五圓 丙<sub>3</sub>號 一二〇七番 一枚

十圓 丙<sub>4</sub>號 二九八四番 三枚  
二九八五番  
二九八六番

右、當府士族橋本安忠所有、處本年八月三十日午前五時頃盜難ニ罹ル

前書ノ通届出候條以後右証書一切取引ヲ爲スヘカラ  
ス且其所在見聞ノ者ハ速ニ届出スヘシ此旨布達候事

(參考) 明治十二年九月十二日 東京府甲第八十八號布達

金祿公債証書

五百圓 丙<sub>1</sub>號 七二〇四番 一枚

三百圓 丙<sub>3</sub>號 二一〇五番 一枚

五十圓 丙<sub>3</sub>號 三八八番 一枚

廿五圓 丙<sub>3</sub>號 一二〇七番 一枚

十圓 丙<sub>4</sub>號 二九八四番 三枚  
二九八五番  
二九八六番

右、橋本安忠所有、分本年八月三十日被盜取候趣及  
布達置候處今般發見候條此旨布達候事

金祿公債証書發行條例



(参考) 明治十二年九月十六日 東京府甲第九十號布達

金祿公債証書

十圓 丙子號

八四〇五番  
八四〇七番  
八四〇八番

三枚

右ハ府下寄留三重縣士族松平定孝所有ノ處本月四日途中ニ於テ遺失

金祿公債証書

十圓 丙子號 七三三〇番

一枚

右ハ當府士族瀨田周吉記名ノ分本月七日午前三時下谷山伏町二十三番地飯塚新七宅ニ於テ盜難ニ罹ル右ノ通ニ付以後右証書一切取引ヲ爲ス可カラズ且其所在見聞ノ者ハ速ニ届出ヘシ

金祿公債証書

百圓 丙子號 五九四二番 一枚

右ハ櫻井六藏記名ノ分所在知レサル旨布達及置候處今般發見ス

右布達候事

(参考) 明治十二年九月十九日 東京府甲第九十一號布達

金祿公債証書

五百圓 丙子號 四五四六番 一枚

三百圓 丙子號 六七五番 一枚

十圓 丙子號 自二八二六番至二八二九番 四枚

右ハ當府士族福島正發記名ノ分日本橋區坂本町十八

金祿公債証書發行條例



番地櫻井彌三郎へ抵當ニ入置候末同人儀本年六月三十日失踪爾來右所在不相知趣届出候條以後右証書一切取引ヲ爲スヘカラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ届出ヘシ此旨布達候事

(參考) 明治十二年九月廿二日東京府甲第九十三號ヲ以達金祿公債証書

千圓 乙シ號 一七八八番 一七九〇番 四枚

當府士族

秋山正永

同

十圓 丙シ號 七三三〇番 一枚 瀬田周吉

右所在知レズ又ハ盜難ニ罹リ候趣布達及置候處今般



發見候條此旨布達候事

(參考)

明治十二年九月三十日東京府甲第九十四號布達

金祿公債証書

五百圓

丙ろ號

四五四六番

一枚

三百圓

丙に號

六七五番

一枚

十圓

丙と號

自二八二六番至二八二九番

四枚

右ハ福島正發記名ノ分所在知レサル趣本年甲第九十一號ヲ以テ布達候處今般發見候條此旨布達候事

(參考)

明治十二年十月廿二日東京府甲第六號布達

金祿公債証書

金祿公債証書發行條例



千圓 乙ろ 六六九參 一枚 長崎縣士族  
北條新三郎

五百圓 丙へ 四五二 一枚 三重縣士族  
酒井秀雄

百圓 丙は 八四五二 二枚

廿五圓 丙と 八四五三 一枚

十圓 丙ま 五〇〇壹 一枚  
自八六二七 四枚  
至八六三〇

秩祿公債証書

百圓 ほ印 三九七三 三枚 同 名

三九七四

五十圓 は印 三九七八 二枚

廿五圓 に印 六四五〇六四九 四枚  
六四六〇六五〇

右盜難ニ罹ル

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十一月廿日東  
京府甲第一百十七號布達

金祿公債証書

當府士族

百圓 丙に 二七六五 一枚 中村 宙承

三百圓 丙を 三三五六 一枚 伊丹 成行

右種類記名ノ証書金吹町四番地阿部保へ抵當ニ入置  
候末同人失踪ニ付該証書所在不分明ノ趣届出候條

(例文略ス)

金祿公債証書發行條例



(參考) 明治十二年十一月廿八日  
東京府甲第百十八號布達

本年十月當廳甲第百六號布達北條新三郎並酒井秀雄  
金祿及秩祿公債証書發見候條此旨布達候事

(參考) 明治十二年十一月廿八日  
東京府甲第百十九號布達

金祿公債証書

- 五百圓 丙い 八二參參 一枚
- 三百圓 丙ろ 參壹三四 一枚
- 百圓 丙に 八〇四 一枚

右布施田高久所有ノ處本月十九日盜難ニ罹候趣届出候條

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十二月二日大  
藏省甲第百廿二號布達

起業公債証書無記名

- 百圓 第五號 四六七四番 一枚 岡田惇佑分
  - 百圓 第五號 四六七五番 一枚 宗像觀策分
  - 百圓 第五號 四六七六番 一枚 岡田新藏分
- 右ハ廣島縣下賀茂郡内海村平山久四郎ハ預ケ中去ル  
十月十九日夜盜取ラシ候條

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十二月三日大  
藏省甲第百廿三號布達

金祿公債証書

東京府士族

金祿公債証書發行條例



五百圓 丙い 八二二三 一枚 布施田高久  
 三百圓 丙ろ 三一三四 一枚 同  
 百圓 丙ま 八〇四 一枚 同

右ハ本年十一月十九日盜難

新瀉縣士族

三百圓 丙ほ 九六九 一枚 大木淳四郎

右ハ本年十月十九日紛失

前書ノ通届出候條

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十二月三日大藏省甲第百廿四號布達

金祿公債証書

千圓 乙ろ 六六九三 一枚 長崎縣士族  
 北條新三郎

五百圓 丙へ 四五二 一枚 三重縣士族  
 酒井秀雄

百圓 丙は 八四五二 一枚 同  
 名

同 丙は 八四五三 一枚 同  
 名

廿五圓 丙と 五〇〇一 一枚 同  
 名

十圓 丙ま 自八六七  
至八六三〇 四枚 同  
 名

七年發行秩祿公債証書

三重縣士族

百圓 丙ほ 三九七三 同 酒井秀雄  
 三九七四 同 名  
 三九七八 同 名

五十圓 丙は 三三六一 二枚 同  
 三三六一 同 名  
 三三六三 同 名

金祿公債証書發行條例



廿五圓 以印

六四五  
六四六  
六四九  
六四五〇

四枚

同

名

右ハ東京府下酒井秀雄宅於テ盜難ノ旨本年十月三十  
一日甲第百六號ヲ以及布達置候處今般發見候條此旨  
更ニ布達候事

(参考)

明治十二年十二月二十日大  
藏省甲第百廿五號ヲ以布達

舊公債証書

廿五圓 以印

七二三番  
七二三番

二枚

右ハ東京府下滬美繁所有ノ處於自宅紛失致シ候旨届  
出候條

(例文略ス)



(参考) 明治十二年十月廿七號布達

金祿公債証書

三百圓 丙ろ 八四二 一枚

廿五圓 丙い 八四零六 一枚

十圓 丙は 自五一九四至五一九七 四枚

右ハ和歌山縣土族川口嘉助所有ノ處本年九月十五日  
夜被盜取候旨今般届出候條

(例文略ス)

(参考) 明治十二年十月廿八號布達

金祿公債証書

三百圓 丙に 二九一九 一枚

金祿公債証書發行條例



廿五圓

丙に

五五五

一枚

十圓

丙か

七九四二

一枚

右ハ石川縣士族涌島照太郎所有ノ處本年十一月廿一日盜難ニ罹リ候段届出候條

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十二月十三日  
大藏省甲第百廿九號布達

金祿公債証書

百圓

丙か

六三〇參

一枚

右ハ秋田縣士族石山慎助所有ノ處本年十一月廿二日盜難ニ罹リ候段届出候條

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十二月十八日  
大藏省甲第百三十號布達

八年發行秩祿公債証書

東京府士族

三百圓

け印

自四三五三  
至四三五八

六枚

伊賀氏理

百圓

ふ印

七六四八

一枚

同

名

百圓

な印

七六四八

一枚

同

名

百圓

へ印

七八〇三

一枚

同

名

百圓

同印

自七八四〇  
至七八四二

三枚

同

名

五十圓

な印

九〇五〇

二枚

同

名

廿五圓

せ印

五七六四

一枚

同

名

金祿公債証書

同

千圓

乙以

六八二七

一枚

同

一九五 名

金祿公債証書發行條例



百圓 丙リ 八九五六 一枚 同 名

十圓 丙そ 四八九〇 一枚 同 名

右ハ本年十一月中於自宅紛失

百圓 丙ヨ 二六四四 一枚

右ハ東京府士族澤田多美右東京府下奇留鹿兒島縣

士族池田藤藏ハ預ク中同人失踪証書所在不分明

前書ノ通届出候條

(例文略ス)

(參考) 明治十二年十二月十八日

大藏省甲第百卅一號布達

金祿公債証書

百圓 丙ヨ 二七六五 一枚 東京府士族 中村由丞

同

三百圓 丙を 三三五六 一枚 伊丹成行

右ハ東京府下金吹町阿部保ハ預ク中同人失踪証書所

在不分明ノ旨本年十一月廿八日甲第百十九號ヲ以テ

及布達置候處今般發見候條此旨更ニ布達候事

(參考) 明治十二年十二月十八日

大藏省甲第百卅二號布達

金祿公債証書

十圓 丙あ 自一二五八 三枚 至一二六〇

右ハ長野縣士族松澤力三郎所有ノ處本年五月中ヨリ

十一月廿九日迄ノ間紛失ノ旨届出候條

(例文略ス)

金祿公債証書發行條例



(參考) 明治十二年十二月一日東京府甲第百二十號ヲ以テ布達

舊公債証書

廿五圓 ㄆ印 (七二三番 七二三番) 二枚

右滙美繁所有ノ處自宅ニ於テ紛失ノ趣届出候條以後該証書一切取引ヲ爲ス可ラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ届出ヘシ此旨布達候事

(參考) 明治十二年十二月十日東京府甲第百廿二號ヲ以テ布達

本年(十一月)當廳甲第百十七號布達中村由承並ニ伊丹成行金祿公債証書發見候條此旨布達候事

(參考) 明治十二年十二月十日東京府甲第百二十三號ヲ以布達

八年發行秩祿公債証書

三百圓	ㄎ印	自四三三番至四三五番	六枚
百圓	ㄆ印	七八〇三番	一枚
百圓	ㄆ印	自七八四〇番至七八四二番	三枚
百圓	ㄆ印	七六四八番	一枚
百圓	ㄆ印	七六四八番	一枚
五十圓	ㄆ印	自九〇五〇番至九〇五一番	二枚
廿五圓	ㄆ印	五七六四番	一枚

金祿公債証書

千圓	乙s	六八二七番	一枚
----	----	-------	----

金祿公債証書發行條例



百圓 丙り 八九五六番 一枚

十圓 丙を 四八九〇番 一枚

右伊賀氏理記名ノ分本年十一月中紛失

金祿公債証書

百圓 丙よ 二六四四 一枚

右澤田たみ記名ノ分池田藤藏ニ抵當ニ差入ノ末同

人失踪ニ付該証書所在不分明

右之通届出候條以後該証書一切取引ヲ爲ス可ラス且

其所在見聞ノ者ハ速ニ届出ヘシ此旨布達候事

(參考) 明治十二年十二月廿七日東

京府甲第百廿八號ヲ以布達

七年發行秩祿公債証書

百圓 は印 三九七〇番 一枚

右ハ石川遠明所有ノ處高知縣平民間盛四郎へ依托中

同人失踪ニ付該証書所在不分明ノ趣届出候以後右証

書一切取引ヲ爲ス可ラス且其所在見聞ノ者ハ速ニ届

出ヘシ此旨布達候事

(參考) 明治十二年十二月一日東

京府公債課報告第十一號

明治十一年九月九日內務大藏兩卿ノ布達ニ據リ金祿

公債証書御買上出願ノ者其証書面へ讓渡手續ノ儀ハ

自今各自ノ記名調印ノミニテ差出可申尤宛名ノ儀ハ

於本課記載可致候條此段御買上出願ノ者へ報告候事

金祿公債証書發行條例



(參考) 明治十二年十二月十一日東京府公債課報告第十二號

新舊公債証書利賦金交付中該公債証書ノ授受賣買届出見合可申旨及報告置候處既ニ下渡濟ニ付自今平常ノ通届出不苦候此旨報告候事

○株式取引條例 乾卷五百八十六丁附錄五卷百二十四丁同 六卷百三十九丁同七卷百九十五丁參看

(參考) 明治十二年九月二十二日太政官第三十七號ヲ以テ布告

東京并大坂株式取引所ニ於テ當分ノ内金銀貨幣取引差許候條此旨布告候事

(參考) 明治十二年九月二十二日太政官第三十八號布告

本年(二月)第八號布告ニ據リ設立シタル橫濱洋銀取引所ノ儀自今橫濱取引所ト改稱シ當分ノ内金銀貨幣取引差許候條此旨布告候事

○新聞條例 乾卷六百二十四丁附錄五ノ卷百十五丁同六ノ卷百四十四丁參看

(參考) 明治十二年七月十五日東京警視本署乙第十六號ヲ以テ郡區役所戶長役場ヘ達

明治十一年(十月)乙第三十號ヲ以相達候新聞紙雜誌雜報一週年賣捌高及代價收入金額取調方書式中(何々社長)ト有之候處(某社主又ハ持主)ト改正候條此旨該營業人ヘ無波可相達事

株式取引條例  
新聞條例



(參考)

明治十二年四月八日警

新聞紙及ヒ雜誌類ヲ讀賣候儀自今一切不相成候條此旨布達候事

○違式註違條例 乾卷六百四十八丁附錄ノ五卷百九十四丁參看

(改正)

明治十二年七月二日警

視本署甲第十八號布達  
註違罪目第三十條へ但書左ノ通追加候條此旨布達候事

第三十條 夜中無燈云々

但街燈アル場處ハ此限ニ在ラス

(改正)

明治十二年十一月八日警

視本署甲第三十八號布達  
違式罪目第六十九條第七十六條刪除候條此旨布達候事

(改正)

明治十二年十二月廿五日警

視本署甲第四十六號布達  
違式罪目第七十一條左ノ通改正候條此旨布達候事

第七十一條 新聞紙雜誌類ヲ街上ニテ讀ミ賣スル者

(參考)

明治十二年十一月五日内務

省號外ヲ以テ警視本署へ達  
東京府下違註罪目第六十九條及ヒ第七十六條ハ十年  
第十三號公布ニ抵觸候條改正スヘシ此旨相達候事

違式註違條例



○月俸規則 乾卷六百七十五丁附錄五卷百八十三丁  
同六卷百五十七丁同七卷二百九丁參看

(改正)

明治十二年十二月十九日太政官第  
四十九號ヲ以テ官省院使府縣へ達

明治七年(五月)第六十一號達月俸規則中左ノ通改正候  
條此旨相達候事

第三條 上下半月内ニ免職更ニ任官ノモノハ前官ノ

俸ハ第二條免職ノ例ニ據リ後官ノ俸ハ同條新任ノ

例ニ據リ支給スヘシ

○郵便規則 乾卷六百九十三丁附錄六ノ卷百  
五十三丁同七ノ卷百一十一丁參看

(參考)

明治十二年十月十一日太政  
官第四十四號ヲ以テ布告

郵便切手一錢ハ代赭色二錢ハ桔梗色ニ改正候條此旨  
布告候事  
但當分從前ノ切手取交相用不苦候事

(改正)

明治十二年十二月廿日  
太政官第四十八號布告

明治十三年郵便規則及罰則別冊ノ通ニ候條此旨布告  
候事  
(別冊略之)

○造幣規則 乾卷八百七十九丁附錄五卷百九  
十丁同六卷三百六十五丁參看

(參考)

明治十二年九月十二日  
太政官第卅五號布告

月俸規則  
郵便規則  
造幣規則



一 貿易壹圓銀(量目七匁一分七厘六毛性合銀九銅一)ノ儀今後稅關ノ諸稅及其他凡ソ洋銀ヲ以テ取引スヘキ諸勘定ノ拂方ヲナス爲メ之ヲ差出ストキハ諸官應ニ於テハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

一 本月十九日以後ハ人民ニ於テ凡ソ負債其他ノ拂方洋銀ヲ以テ履行スヘシト結約シタル處ノ金高ヲ拂フ爲メ右壹圓銀ヲ差出スルハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

右布告候事

(參考) 明治十二年十月一日太政官第四十一號布告

明治十一年十一月第三十五號布告ニ左ノ通但書追加候

條此旨布告候事

但貿易壹圓銀一般通用ノ儀ハ明治十一年五月第十二號布告ノ通可相心得事

(參考) 明治十二年十月十日大藏省甲第百壹號ヲ以テ布達

造幣ノ爲メ輸入スル金銀地金ノ儀内外人民ノ便利ヲ謀リ別紙規則ニ從ヒ大藏省内造幣局出張所ニ於テ受取候條此旨布達候事

但地金受取方日限ノ儀ハ追テ可及布達候事

明治十二年十月甲第百壹號布達附屬

第一條 出張所ニ輸入スル金銀地金ハ輸入立會ノ上出張所詰長官直ニ之ヲ受取鑄解シテ品位ヲ試驗ス



其實價ノ内ヨリ第四條ノ費用(貨幣鑄造料ヲ除ク)ノ  
銀(可)ヲ引去リ第六條ノ日限ニ依リ貨幣(金ハ貿易一圓  
銀)ヲ以テ拂渡ス可シ

但試験鑄解減ハ輸入人ノ持チタル可シ

第二條 地金受取定高金地金ハ其高五十オンス(凡四  
勿)銀地金ハ五百オンス(凡四貫百)不純粹金銀地金舊  
金銀貨幣及ヒ金銀混合地金ハ價格二百圓以上タル可シ

第三條 地金ハ左ニ表出スル日ヲ除クノ外毎日午前  
第九時ヨリ正午十二時迄ニ受取ル可シ

毎日曜日	大祭日	一月	六月十六日ヨリ	十二月	廿五日ヨリ
	臨時休暇	三日マテ	八月十五日マテ	十二月	卅一日マテ

第四條 地金ノ種類ニ應シ左ノ費用ヲ出張所ニ受取  
ル可シ

金地金ノ精製分析ヲ要セザルモノ及精製分析ヲ  
要スルモノ

試験鑄解料 原量五百オンス未満 金 壹 圓

同 五百オンス以上 金 二 圓

同 千オンス未満 金 壹圓ヲ増ス

試験分析料 原量五百オンス未満 金 二 圓

同 五百オンス以上 金 四 圓

同 千オンス未満 以上之ニ準シ金二圓ヲ増ス

貨幣鑄造料 百分ノ壹

運賃并保驗料 價格壹萬圓ニ付 金 六十五 圓

造幣規則



但大坂ニ於テ價格拂渡シテ願フトキハ半額ヲ受取ル可シ

但不純粹金地金ハ本文費用ノ外所含純金十オン  
スニ付金一圓三十七錢七厘ノ精製分析料ヲ受取  
可シ此場合ニ於テハ試驗鎔解料ハ受取ラサル可  
シ

銀地金ノ精製分析ヲ要セサルモノ及精製分析ヲ要  
スルモノ

試驗鎔解料 原量千オンス未滿 金 壹 圓

同 千オンス以上 金 二 圓

以上之ニ準シ金壹圓ヲ増ス

試驗分析料 原金千オンス未滿 金 壹 圓

同 千オンス以上 金 二 圓

以上之ニ準シ金壹圓ヲ増ス

貨幣鑄造料 百分ノ壹

運賃并保險料 價格壹萬圓ニ付 金 六十五 圓

但大坂ニ於テ價格拂渡シテ願フトキハ半額ヲ受取ル可シ

但不純粹銀地金ハ本文費用ノ外含純銀十オンス  
ニ付金二十一錢三厘ノ精製分析料ヲ受取ル可シ  
此場合ニ於テハ試驗鎔解料ハ受取ラサル可シ  
舊金銀貨幣及ヒ金銀混合地金ノ精製分析ヲ要スル  
モノ

試驗分析料 原量千オンス未滿 金 二 圓

造幣規則



同 千オンス以上 金 四 圓  
二千オンス未滿

以上之ニ準シ金二圓ヲ増ス

但試驗鑄解及ヒ試驗分析ノ後其儘地金返却ヲ乞  
フキ或ハ精製分析ニ不適當ナル地金ニシテ輸入  
人ニ返却スルキハ試驗分析料ノ外地金原量千オ  
ンス未滿ハ金一圓千オンス以上二千オンス未滿  
ハ金二圓二千オンス以上之ニ準シ試驗鑄解料ヲ  
受取リ地金ヲ返却スヘシ  
精製分析料

千分中金百分 純金十オンスニ付 金三圓二十三錢

未滿地金ハ 所含 純銀同斷 金二十一錢三厘

同金百分以上ニ 純金十オンスニ付 金一圓九十錢四厘

百分未滿地金ハ 純銀同斷 金十二錢八厘

同金二百分以上 純金十オンスニ付 金一圓二十七錢七厘

純銀同斷 金八錢五厘

但右ハ都テ千分中雜物百分未滿ノモノトス若シ  
雜物百分以上ヲ含有スル地金ハ右費用ノ外左ノ  
増手數料ヲ受取リ二百分以上ハ倍數ヲ受取ルヘ  
シ但雜物二百五十分以上ノ地金ハ受取ラサルヘ  
シ

其地金 純金十オンスニ付 金三十四錢九厘

所含ノ 純銀同斷 金二錢二厘

貨幣鑄造料 所含 銀共百分ノ一

運賃并保險料 價格壹萬圓ニ付 金六十五圓

造幣規則



但大坂ニ於テ價格拂渡ヲ願フキハ半額ヲ受取ル可シ

品位詳明ノ銀地金ニシテ試驗鑄解ヲ要セサルモノ但外國金銀貨幣ハ大坂造幣局ニ限リ受取ルヘシ尤試驗鑄解ノ上輸入センコトヲ望ムキハ出張所ニ於テモ受取ルコトアル可シ

照驗試分析料 金銀地金試驗分析料ニ同シ

貨幣鑄造料 金共百分ノ壹

運賃并保險料 價格壹萬圓ニ付 金六十五圓

但大坂ニ於テ價格拂渡シテ願フキハ半額ヲ受取ル可シ

第五條 地金輸入高工程ニ超過スルキハ受取方ヲ拒

ムコアル可シ

第六條 試驗分析シテ地金ノ品位定マリタル上ハ左

ノ日割ヲ以テ價格ヲ拂ヒ渡スヘシ尤舊金銀貨幣ハ試驗濟ノ日ヨリ成ル可ク速ニ價格ヲ拂渡ス可シ

造幣適當金銀地金 試驗濟ノ日ヨリ休暇ヲ除キ

不純粹金銀地金 二百圓以上 同 二十八日 目

及金銀混合地金 五百圓以上 同 三十日 目

同 千圓以上 同 三十二日 目

同 五千圓以上 同 三十五日 目

同 一萬圓以上 同 四十日 目

但右日數ヲ待タズ貨幣渡方ヲ望ム者ハ一日一萬圓ニ付金一圓ヲ割テ以テ殘日數ニ乘シ之ヲ



引去リ渡方ヲ爲ス可シ  
第七條 地金中含有ノ金銀ヲ除クノ外他ノ雜物ハ渾  
テ返却セサル可シ

○地所名稱區別 乾卷八百八

(參考) 明治三十二年九月十一日太政  
官第三十四號ヲ以テ布告

明治七年十一月第一號布告地所名稱區別中官有地  
第二種第四種區入費ヲ賦スルトアルチ地方稅ヲ賦セ  
サルトシ第三種但書借地料及ヒ區入費ヲ賦スヘシト  
アルチ借地料ヲ納メシムヘシトシ其他區入費トアル  
チ都ヲ地方稅ト改正候條此旨布告候事

○戶籍 坤卷一丁附錄五ノ卷二百三十二同六ノ卷  
三百八十二丁同七ノ卷二百三十二丁參看

(參考) 明治十二年十一月八日宮内省  
無號ヲ以テ華族部長局ヘ達

今般京都府ニ於テ郡區編製諸願屆等取扱改正相成  
候ニ付テハ自今府廳郡區役所取扱ニ係ル諸願屆ノ内  
別戶願諸會社設立願無位華族寄留願家令扶入履止  
ニ限リ前以族長ノ檢印ヲ受ケ正副二通部長分局ヘ差  
出別戶願ハ督部長ノ承認ヲ受諸會社設立願外二件ハ  
第六郡長承認ノ上府廳郡區役所ヘ可差出旨京都府華  
族ヘ可相達候此段相達候事

(參考) 明治十二年七月十日  
內務省甲第十號達

地所名稱區別  
戶籍



小笠原島へ出稼トシテ移住及寄留等ニテ航海致候儀者當分差止候條此旨布達候事

○建造物書入質及賣買讓渡規則 坤卷二百三十九丁附錄五ノ卷二百四十一丁同六ノ卷四百五丁同七ノ卷二百十八丁參看

(參考) 明治十二年九月五日東京府甲第八十四號ヲ以テ達

兵庫縣加西郡鎮岩村地所及建物書入質(地所ハ明治八年十二月ヨリ同十年七月マテ)與書割印帳紛失ニ付若該村ノ地所建物ヲ抵當ニ取置戸長ノ公証ヲ受ケタル証書所持ノ者ハ本年十月三十一日迄ニ該地戸長役場へ可申出右日限過去候ハ、其効無之モノト見做候旨同縣ヨリ通知越候條此旨布達候事

(參考) 明治十二年九月二十日東京府甲第九十二號ヲ以達

石川縣金澤區下石引町出羽町自一番町至五番町上中下(應匠町(中下)欠原町飛梅町地所建物書入質與書割印帳紛失)○高知縣安藝郡安藝村地所建物書入質與書割印帳本年一月以前ノ分焼失  
右ノ通ニ付若シ該町村ノ地所建物ヲ抵當ニ取置戸長ノ公証ヲ受ケタル証書所持ノ者安藝村ノ分ハ本年十月三十一日限リ其他ハ本年十月三十一日限リ該地戸長役場へ申シ出へシ右日限過去候上ハ其効ナキモノト見做候旨該縣ヨリ通知有之候條此旨布達候事

(參考) 明治十二年十月廿二日東京府甲第七號ヲ以布達

建造物書入質及賣買讓渡規則



山形縣羽前國北村山郡山口村地所並建物質入書入與書割印簿本年八月廿八日燒火ニ付該村ノ地所建物ヲ抵當ニ取置戸長ノ公証ヲ受ケタル証書所持ノ者ハ本月三十一日限リ該村戸長役場へ申出ヘシ右日限過去リ申出ナキ地所建物ハ一切關係ナキモノトシ公証爲取計候趣同縣ヨリ通知有之候條自然關係ノ者有之候ハ、至急該村戸長役場へ申出ヘシ此旨布達候事

(參考) 明治十二年十月廿八日東京府甲第百八號ヲ以布達

三重縣伊勢國多氣郡下ノ瀬村地所建物質入書入與書割印簿本年三月以前ノ分錯雜ニ付更ニ公証ヲ受タル証書所持ノ者ハ本年十一月三十日限リ右村戸長役場

へ申出ヘシ右日限過去候上ハ其効無之者ト見做候旨同縣ヨリ通知有之候條此旨布達候事

(參考) 明治十二年十二月廿八日東京府甲第百廿九號布達

新潟縣刈羽郡長島村ノ内岩ノ入地所建物質入書入割印帳明治九年六月以來ノ分燒失ニ付若シ右村地所建物ヲ抵當ニ取置戸長ノ公証ヲ受タル証書所持ノ者有之ハ來ル明治十三年二月廿八日限リ該村戸長役場へ申出ヘシ日限經過ノ上ハ右地所關係無之モノトシ公証セシムヘキ趣同縣ヨリ通知有之候條此旨布達候事



○地券渡方規則 同坤卷二百九十二丁附錄五卷二百四十三丁

(參考) 明治十二年七月二日地租改正事務局乙第六號ヲ以府縣ニ達

地券ト臺帳ト割印ノ儀ハ壬申二月地券渡方規則並八年地租改正事務局乙第八號離方等ヲ以相達置候處自今相廢シ候條此旨相達候事

(參考) 明治十二年九月廿九日地租改正事務局ヨリ乙第八號ヲ以地租改正既濟ノ府縣(福岡縣ヲ除ク)ニ達

地券授與之濟否參照之次第有之候條即今授與濟之分及ヒ前途悉皆渡濟之見込トモ詳細取調本年十月三十日限可差出此旨相達候事

○訴訟入費償却規則 一 坤卷四百十

(參考) 明治十二年十月廿七日司法省中第三號ヲ以布達

明治九年第五號布達訴訟入費償却規則中差添人ニ係ル件々一切刪除候條自今民事詞訟差添人ノ費用ハ訴訟入費トシテ請求スルヲ得ス此旨布達候事

○控訴上告 坤卷三百七十三丁附錄五卷二百一十一丁參看

(參考) 明治十二年十一月八日司法省丁第廿六號ヲ以諸裁判所ニ達

刑事上告ニ付一件書類大審院ニ遞送テ節書類具備致

地券渡方規則  
訴訟入費償却規則  
控訴上告規則



サ、ル向モ有之審判上自然淹滞ヲ生シ候趣大審院長  
ヨリ及具上候ニ付向後一切無遺漏遞送可致此旨相達  
候事

(参考) 明治十二年八月廿日司法省丙第十七  
號ヲ以檢事并ニ檢事有サル各縣ニ達

上告ノ節指出候罪按并ニ裁判宣告書是迄本書一通指  
出候向不少右ハ以來寫書共ニ二通可差出此旨相達候  
事

○賣藥規則 附錄五卷二百  
五十七丁參看

(参考) 明治十二年八月六日東京府乙第  
四十一號ヲ以テ郡區役所ニ達

施藥之儀ハ昨十一年七月己降檢査之上許可致來候處  
自用防臭藥并消毒藥ヲ除ク之外内外用藥劑共詮議之  
次第有之一切出願停止候條是迄下付ノ鑑札ハ早々返  
納可爲致此旨相達候事

但豫テ許可ヲ得タル賣藥ヲ相對施與スルハ此限ニ  
アラス

(参考) 明治十二年八月二十一日大藏省  
乙第三十三號ヲ以テ府縣ニ達

本年二月乙第十二號ヲ以テ酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣  
候者ノ取扱方相達置候處右達書ニ掲載セル品目外ノ  
モノニシテ酒類ヲ和スト雖モ全ク藥性ヲ浸出スルニ  
止マルモノハ酒類稅則ノ限ニアラス其種類ニ依リ製

控訴上告規則  
賣藥規則



藥又ハ賣藥ノ免許ヲ可爲受儀ト可相心得此旨相達候事

但酒造營業人及酒類受賣營業人於テ酒精或ハ再餽酒精ヲ蒸餾シ又ハ販賣スル者ハ酒類稅則中燒酎ノ明文ニ據リ課稅スヘシ

○日本坑法 坤卷六百九丁附錄五卷二百六丁卷十五丁同七卷二百三十二丁參看

(參考) 明治十二年十月廿八日工部省第十四號ヲ以テ布達

砂鏡並砂金稼行ノ者ハ日本坑法ニ基キ試掘借區開坑ヲ許可シ來候處自今都テ試掘借區開坑ノ名稱相廢候條該地所ノ名字等詳細ノ繪圖面相添採取ノ儀出願ス

～シ且從來既ニ試掘借區開坑ノ許可ヲ受居候者ハ採取ニ願替假坑區券ハ返納スヘキ儀ト可心得此旨布達候事

○司法警察規則 坤卷八百五十二丁附錄五卷二百七十七丁同六卷四百四十二丁同七卷二百四十七丁參看

(參考) 明治十二年七月五日陸軍省達 甲第十三號ヲ以テ府縣ニ達

東京鎮臺元豫備砲兵第一大隊

第二小隊生兵當時懲役人

太田浦次郎

右ノ者明治十一年十一月廿二日越獄逃去候ニ付同年

日本坑法  
司法警察規則



十二月達甲第廿四號人相書ヲ以捕縛方相達置候處本年五月十九日東京府下芝區愛宕下町ニ於テ捕縛相成候條此旨相達候事

(參考)

明治十二年七月廿九日司法省無號ヲ以大審院諸裁判所檢事檢事在ラサル府縣ニ達

被害者ヨリ吟味願出ルモノハ畢竟刑事附帶ノ私訴ト看做スヘキモノナク故ニ之ヲ受理シテ共刑事裁判ヲ爲スルハ必ス其附帶シテ起ル所ノ民事ノ裁判ヲモ與フヘシ

右相達候事

凡ソ偽証或ハ公私文書ノ贋造ニ係ルヲ發覺シ刑事裁判ヲ經シ上ハ其文書ハ素ヨリ其裁判所ニ没入シ置ク

ヘシト雖トモ或ハ其文書ノ証憑ナキヲ以テ他ニ詞訟ヲ起スヘキ途方ヲ失ヒ冤枉者ナキヲ保シ難ク故ニ其文書ヲ没入スルニ當リ其文書ノ寫ヲ請求スル者ニハ必ス之ヲ與フヘシ

但裁判所ニ方テ該書類ニ消印ヲ捺スル如キノ慣習ハ廢止トス各裁判ニ於テハ前條文書ノ寫ヲ以テ訴出ルモノアラハ尋常ノ證據ト見ルハ勿論ト雖トモ若他ノ裁判所ニアリテハ一應其没入セシ所ノ裁判所ニ照會シテ其没入セシハ果シテ信ナルヤヲ認メシ上裁判ヲ與フヘシ

右相達候事



(參考) 明治十五年八月五日陸軍省

元教導團工兵中隊第一小隊二等生徒

兵庫縣士族播磨國明石村住源内弟

明治十二年三月御處刑

徒刑二年

服部 邦雄

八月十九年二ヶ月

幹五尺一寸五分○顔圓キ方○額潤キ方○眼常休○  
鼻常休○口大ナル方○頤圓キ方○眉濃クシテ密○  
髮濃クシテ密○痘種○逃亡ノ節着服○白木綿縞袴  
一枚○木綿三尺帶○大小ズボン下但シ首鉗施シア  
右ノ者七月十五日外役先ヨリ逃亡候條各地方ニ於テ

嚴密搜索ヲ遂ケ捕縛ノ上ハ成規ノ通り取計フヘシ此  
旨相達候事

(參考) 明治十二年十月卅一日東京警視本

署第四百四十一號ヲ以テ各分署ヘ達

軍人軍屬脱走ノ者捕縛護送方ノ儀ハ明治十年四月陸

軍省達乙第一百一號ニ照シ直ニ陸軍裁判所ヘ送付致來

リ候處以來各府縣ヨリ遞傳護送ノ者及ヒ各分署ニ於

テ捕獲若シクハ自首シタル者ハ其所屬ノ本隊又ハ所

轄ノ官廨ヘ送付可致此旨相達候事

但本隊及ヒ所轄官廨東京ニ在ラサル向及常事犯ニ

係ル者ハ以前ノ通りニ候事



(參考)

明治十二年十一月七日  
內務省ヨリ東京府へ達

各官廳内變死有之節檢視ノ儀改正

各官廳内等ニ於テ變死傷者有之節檢視ノ儀別紙ノ通

リ大藏省へ御達工部省へ御指令相成候條爲心得及御

通達候也

大藏省

本年第十二號ノ儀ニ付其省伺ヒ四月十二日及指令

置候處左ノ通改正候條此旨相達候事

明治十二年十月廿日

太政大臣三條實美

伺ノ趣ハ重傷死ニ至ルト看認ムル者ヲ除クノ外其負

傷ノ原由判然タル者ハ必スシモ檢視ヲ要スルニ不及

儀ト可心得候事

○軍人瀛船乗組手續 坤卷千四百三十三丁附錄七

(參考)

明治十二年十月三十日陸軍  
省無號ヲ以テ陸軍一般へ達

軍人航海便益之爲ノ瀛船乗組賃金減却等ノ儀別冊ノ

通三菱會社ト締約候條乗組手續別紙ノ通可相心得尤

締約書中掲載ノ通軍人航海ノ節ハ可成同社ノ瀛船ニ

乗組候様各部下へ輸達シ且官物輸送ノ節ハ通常賃金

ヲ以テ必同社瀛船ニ積入候様可取計此旨相達候事

三菱會社瀛船乗組手續

第一款 陸軍々人三菱會社ノ瀛船ニ乗組航海スルハ

ハ締約書第一條ノ如ク其賃金ヲ減却スルニ付第五

條ノ賃金ヲ各自辨出スル軍人ニハ乗船ニ先タテ款

軍人瀛船乗組手續



未ニ掲クル離形ノ証票ヲ附與ス可シ

第二款 此証票ハ陸軍省會計局ニ於テ之ヲ製シ近衛  
 鎮臺會計部及東京府下官廨會計部ニ各若干葉ヲ送  
 附シ近衛鎮臺會計部ニ於テハ管下各隊並官廨(東京  
 府下ノ外)會計官ニ各若干ヲ配賦シ置ク可シ

第三款 三菱會社ノ汽船ニ乗組航海セントスルモノ  
 本人口述或ハ書面ヲ以テ該廳ノ會計部(兵隊ハ該隊  
 會計官)ニ証票ヲ請フキハ會計副監督(副監督在ラサ  
 ル官廨及ヒ各隊ハ軍吏)証票ニ上下等室ノ區別所管  
 官姓等名ヲ朱書ノ如ク填書シ署名捺印割印シテ直  
 ニ本人ニ付與スヘシ

但渡航往復スル者或ハ巡回各地ニ涉リ汽船乗換

ヲ要スル等ノ者ハ豫メ其乗船ノ度數ヲ量リ証票  
 幾葉ヲ附與シ若シ殘餘アルキハ追テ還付セシム  
 可シ

第四款 水火盜難等ノ爲メ証票ヲ失ヒタルキハ其近  
 傍陸軍ノ廳或ハ屯在兵ニ屬スル會計官ニ請ヒ更ニ  
 証票ヲ受クルヲ得ヘシ

第五款 締約書第二條ノ如ク上等室ノ証票ヲ受ケシ  
 者都合ニ依リ下等室ニ入ルキハ下等減額ノ賃金ヲ  
 支拂フヲ得ヘシ

(離形略之)

陸海軍人汽船乗組締約書

凡ソ軍人ハ身ヲ致シテ人民保護ノ任ニ膺ル者ナルヲ

軍人汽船乗組手續



以テ三菱會社ニ於テ其航海該社ノ汽船ヲ以テスル者ハ賃金ノ幾分ヲ減シテ以テ之ニ便セントス此意報國ノ義務ヲ善ニスルニ在ルナリ茲ニ因テ今年即チ明治十二年十一月ヨリ來ル明治十五年十月迄滿三ケ年間陸海軍兩省ト該社ト其條目ヲ締約スルコト左ノ如シ

第一條 陸海軍々々人航海スルキハ兩省ヨリ乘船證券ヲ各人ニ附與スレハ此證券ヲ携持スル者ハ三菱會社汽船上下ノ級等ニ應シ其乘船賃金定價ノ三割ヲ減却シ乘船スルコトヲ得ヘシ

但三菱會社ノ乘船賃競争ノ事故ニヨリテ現今ノ定額半減迄下ルキハ割引ヲ止ムヘシ

第二條 陸海軍兩省ニ於テ乘船證券附與スルキ准士

官以上上等室下士以下ハ下等室ヲ以テ定規トス然レモ其証券面ヨリ下等ノ室ヲ望ム者アレハ其意ニ任スト雖モ若シ上等ノ室ヲ望ムキハ本人ヨリ常人同額ノ賃金ヲ拂フニ非レハ之ヲ許スヘカラス

但本行ノ如ク船室上下ノ別ヲ定ムルト雖モ先客アリテ該室充滿シ或ハ各室ノ設ケ無キ船ハ証券面上等ヲ下等ノ室ニ充ツルハ時宜ニ因ルヘシ尤モ既ニ船客滿員シ乘船ナシ難キ場合ニ於テ之ヲ辭ムハ會社ノ權ニアルヘシ

第三條 無賃携帶スルヲ得ル手荷物ノ高ハ尋常船客同様ナルヘシ其限外ノ分ハ定額ノ運賃ヲ拂フヘシ

第四條 乘船証券ヲ授クヘキ事由アル者ニシテ下士



卒數名渡航スル者ハ上等下等ニ分ケタル人員ノ証券ヲ其上级ノ者一名ニ附與シテ乘船ノ前本支社ニ出サシメ賃金ヲ拂ヒ乘船切符ト交換スヘシ

但此乘船証券ハ豫メ陸海軍兩省ニ於テ製作シ雖形ヲ本支社ニ廻送シ置ク者トス

第五條 此乘船締約ニ因リ証券ヲ以テ乘込ヘキハ其賃金ヲ各自辨出スル者ニ止リ此他行軍或ハ官ノ賄ヲ受ケテ渡航スル者或ハ兩省ヨリ運輸スル荷物ノ如キハ會社ニ於テ定タル賃金ヲ減却スルコトナシト雖モ會社便益ノ爲メ右無減ノ賃金ニ拂クヘキ乘船人並荷物共三菱會社ノ通船アル場所へ漁船ヲ以テ海運スルモノハ自今悉ク之ヲ該社ニ依託スヘキ方

法ヲ兩省ニ於テ施行スヘシ(該社ノ通船間遠ナルキニ方リ急ヲ要スル等ノキハ此限ニアラス)且此締約ニ就テハ各自航海施行スルキモ可成丈ケ該社ノ漁船ニ乗込ヘキ旨ヲ兩省ヨリ各軍人ニ諭達スヘシ

第六條 此締約年限満期ニ至ルキハ尙雙方熟議ノ上便法ヲ斟酌シ若干ノ年限ヲ定メ締約ヲ更正追約スル者トス

右條々締約シ畢リ書面三通ニ連署檢印シ各一通ヲ收置スル者ナリ

陸軍卿 西郷從道

明治十二年十月 海軍卿 河村純義

三菱會社社長岩崎彌太郎

軍人漁船乘組手續



○内國難破船救助漂流物取扱規則 附錄五卷二百七十九丁參看

(參考) 明治十二年十月廿八日警視本署 乙第廿三號ヲ以テ郡區役所へ達

難破船届出方ノ儀ニ付明治七年第四百十號及九年第七十八號公達ノ趣モ有之候處自今西洋形商船ニ限リ難破及衝突ニ罹ルモノ左ノ離形ニ照準其都度可届出該船所持人へ無波可相達此旨相達候事

離形

- 一 瀛船(又ハ)帆船ノ名 〔船長ノ本貫氏名並海技免狀ノ等級運轉手同斷瀛船ナラハ機關手同斷〕
- 一 遭難ノ年月日時分 夜陰ナラハ燈火ノ有無
- 一 遭難ノ場所 航海中又ハ碇泊中
- 一 難破ノ因由 〔暴風ノ爲メ或ハ暗礁ニ觸レ若クハ衝突〕

- 一 難破ノ景況 皆破或ハ沈没若クハ大破又ハ小破
- 一 海員並乘客死傷ノ有無
- 一 積荷存否

(參考) 明治十二年十二月廿四日警視本署第百五十六號各分署へ達

明治十一年四月第六十九號達遺失物及ヒ置贓物漂流物等取扱心得第五條左ノ通改正候條此旨相達候事

第五條 一時出京セシ他管下ノ人民遺失物ヲ拾ヒ得テ訴出ルモノハ後日處分ノ爲メ代理人ヲ立置カシムヘシ

若シ代理人ナキ者ハ篤ト其在所ヲ聞置キ後日處分ノ上入費及報勞金ハ物主ナキキ等便宜本人ニ送付スヘシ

内國難破船救助漂流物取扱規則



但送付方ニ就キ費用ヲ要スルハ其金額中ヨリ引去リ又ハ本人ヨリ償却セシムル等是亦便宜處ニ置スヘシ

(參考)

明治十二年十二月廿四日警視本署第五百五十七號各分署へ達

本年十二月百五十六號ヲ以テ遺失物及置脏物漂流物等取扱心得第五條改正候ニ付テハ己來本人右届出ノ節ハ左ノ事項ニ照シ物品及ヒ金額授受ノ手續本入ノ望ニ任セ豫メ可相示置此旨相達候事  
一金額遞送費辨償方  
一物品遞送費辨償方  
一現物若クハ代價ヲ以ナスヘキヤ否

○遺失物取扱規則附錄七ノ卷二百五十七丁參看

(參考)

明治十二年十一月十二日東京警視本署第四百四十三號ヲ以各分署へ達

明治十一年(四月)第六十九號達遺失物等取扱心得第二十三條刪除候條此旨相達候事

(參考)

明治十二年十二月二日警視本署甲第四百十號布達

芝區高輪南町十八番地東京府士族後藤猛太郎へ下渡候第四百五十六號遊獵免狀遺失候段届出候條所在見聞ノ者有之候ハ、速ニ最寄警視分署へ可申出此旨布達候事

遺失物取扱規則



(參考) 明治十二年四月十三號布達

英國人シイセイマンニシテ下渡置候第三百〇五號鳥獸獵免許証遺失候旨届出候條右免許証拾取候者有之候ハ、速ニ最寄警視分署ニ可届出此旨布達候事

(參考) 明治十二年四月廿三日警視本署甲第四十五號布達

英國人シイセイマンニシテ下渡置候第三百五號鳥獸獵免許証遺失ノ旨本月甲第四十三號ヲ以布達候處今般發見候趣届出候條此旨更ニ布達候事

○鳥獸獵規則 附錄七卷二百六十丁參看

(參考) 乙 明治十二年八月二十七日東京府

銃獵稅帳別冊離形ノ通相定候條右ニ照準取調毎年七月三十一日限取調可差出事

毎年七月三十一日  
限リ差立

何郡役所

(朱書)  
離形  
明治何年度  
銃獵稅帳



一金何程  
內

銃獵稅

一金何程

職獵何人  
但一八二付  
金一圓

一金何程

遊獵何人  
但一人二付  
金十圓

一金何程

鑑札書換手數料  
但一枚二付  
金二十五錢

右ハ當郡內明治何年十月一日ヨリ同何年四月十日迄銃獵稅書面之通候也

年 月 日

郡區長名印

東京府知事某殿

(參考)

明治十二年十月九日東京警視本署甲第三十三號ヲ以布達

東京府下鳥獸獵期限ノ儀本月十五日ヨリ來ル明治十三年四月十四日迄差許候條此旨布達候事

○証卷印稅規則 附錄卷ノ一三百三十丁同 五卷三百二十八丁參看

(參考)

明治十二年八月七日太政官第三十一號ヲ以テ布告

明治七年七月第八十一號布告證券印稅規則中左ノ通追加  
來ル十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

第二則第一條第二類諸書中諸品賣買任切書ノ傍  
左ノ但書追加

但シ買任切書ハ荷主ヨリ輸送シ又ハ輸送セシトス

証券印稅規則

三四九



ル物品ヲ問屋仲買又ハ其他ニ於テ仕切リ其價格等  
ヲ荷主ヘ證明報告スル書類ヲ云ヒ賣仕切トハ荷主  
ヨリ物品ヲ販賣又ハ輸送スルニ方テ其物品賣却ノ  
價格ヲ荷受主ニ向テ證明報告スル書類ヲ云フ

一銀行當坐預リ金小切手

右ノ小切手ハ金高ニ係ハラヌ總テ一錢ノ印税ヲ徵收

シ大藏省ニ於テ税印ヲ押捺スルモノトス

(參考)

明治十二年九月廿四日太  
政官第卅九號ヲ以テ布告

本年八月三十一號ヲ以テ證券印税規則中追加銀行當  
座預リ金小切手ヘ税印押捺スヘキ儀布告候處今般右  
税印左ノ見本ノ通相定候條此旨布告候事

(見本畧之)

(參考)

明治十二年九月三十日東京  
府甲第九十五號ヲ以テ布達

本年九月第三十九號布達ニ屬スヘキ印税見本ハ郡區役  
所ヘ下渡置候條此旨布達候事

(參考)

明治十二年十月十日太政  
官第四十三號ヲ以テ布告

本年八月第三十一號ヲ以テ布告候證券印税規則追加中  
銀行當座預リ金小切手ハ十月一日以後都テ税印可相  
受ノ處來ル十三年六月三十日限り証券印紙交用候ト  
モ不苦候條此旨布告候事

証券印税規則



○官祿稅規則 附錄一卷

(參考) 明治十二年十二月廿七日太政官第五十二號ヲ以官省院使府縣ニ達

明治七年ヨリ當分官祿稅被設候處明治十三年一月ヨリ右被廢候條此旨相達候事

○租稅延納規則 附錄一卷

(參考) 明治十二年九月十三日東京府甲第八十九號ヲ以達

明治九十兩年地租ノ儀改租額ト既納額ト差引不足ノ分徴収致スベキ處右二ヶ年ノ増額一時取立候ヲハ難澁ノ場合モ可有之ニ付特別ノ詮議ヲ以テ本年ヨリ二

ヶ年据置來ル明治十四年ヨリ起算左表ノ通年賦延納可差許候條此旨布達候事

但改租額ト既納額ト差引過納ノ金員返戻ノ儀ハ成算ノ上可相達候事

増稅延納割賦年限表

既納額		未納額	
金壹圓ニ付	金三十錢未滿		五ヶ年賦
同	金三十錢以上	五十錢未滿	十ヶ年賦
同	金五十錢以上	壹圓未滿	十五ヶ年賦
同	金壹圓以上	二圓未滿	二十ヶ年賦
同	金二圓以上	三圓未滿	二十五ヶ年賦

官祿稅規則 租稅延納規則



同	金三圓以上	五圓未滿	三十ヶ年賦
同	金五圓以上	十圓未滿	卅五ヶ年賦
同	金十圓以上	廿圓未滿	四十ヶ年賦
同	金廿圓以上	卅圓未滿	四十五ヶ年賦
同	金卅圓以上		五十ヶ年賦

(參考) 明治三十二年九月十九日大藏省  
乙第三十五號ヲ以府縣へ達

明治十年十一月當省乙第三十九號ヲ以テ田方地稅預  
リ米ノ儀相達置候處自今地租改正ニ用ヒタル米價ヨ  
リ時價下落ノ節ニ限リ聞届候儀ト可相心得此旨更ニ  
相達候事

○地稅徵收期限 附錄一卷參看

(參考) 明治三十二年十月十四日大藏省  
乙第三十八號ヲ以府縣へ達

稅外收入及ヒ諸返納金其他經費殘余ノ還納等當省へ  
納方ノ儀ニ付本年乙第二十六號ヲ以テ相達置候處右  
領收証取扱方左ノ通收稅委員へ相達置候條爲心得此  
旨相達候事

- 一 稅外收入及ヒ諸返納金其他經費殘余ノ還納等ハ  
收稅委員ヨリ租稅局へ上納スヘシ
- 一 租稅局於テハ上納ノ順序ヲ經テ出納局又ハ國債  
局ノ領收証ヲ收稅委員ニ送附シ委員ハ之ヲ得テ  
府縣ニ送致シ彙ニ送致セシ委員ノ領收証ト交換

地稅徵收期限



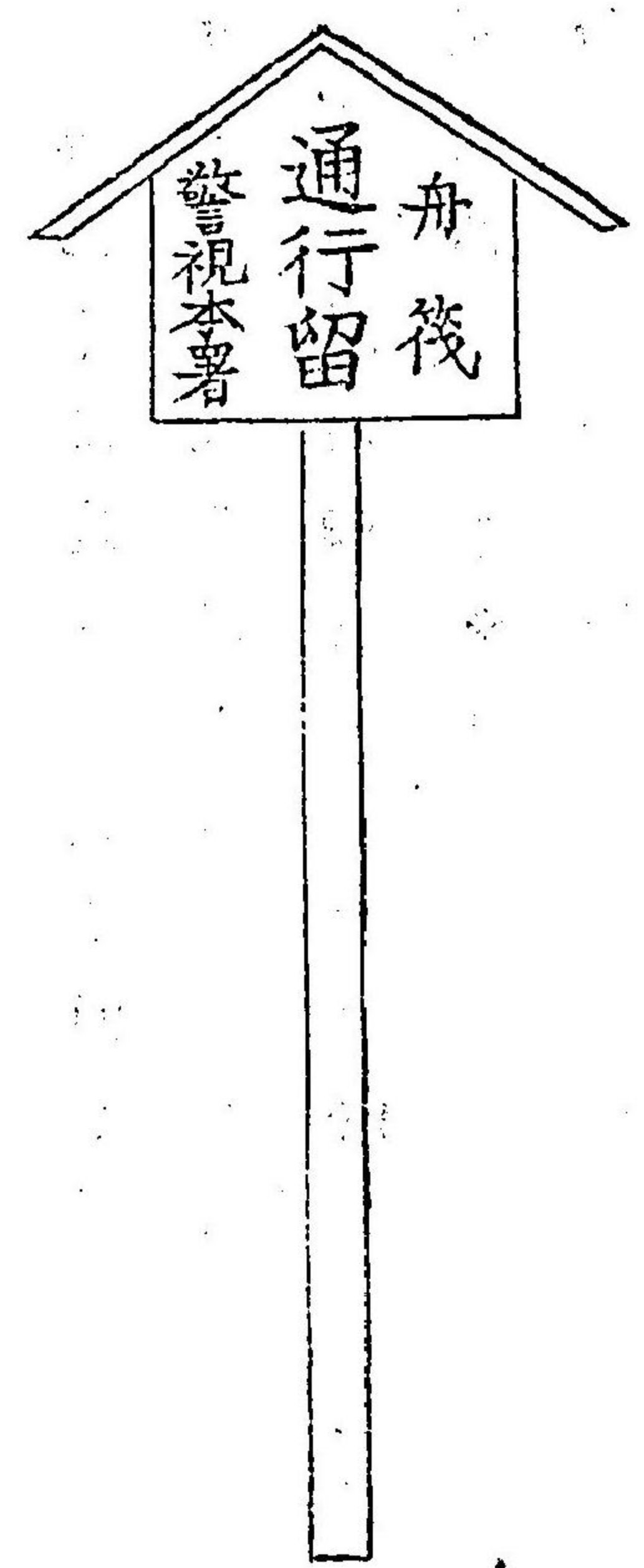
(參考) 明治十二年十一月七日大藏省乙第四十號ヲ以府縣ニ達

本年當省第十號ヲ以テ相達候納稅切符第二號雛形中「右現金」ノ下ニ(何月何日)ノ四字ヲ挿入候條此旨相達候事

○官令揭示心得 附錄一 卷參看

(參考) 明治十二年七月廿五日警視本署第百三號ヲ以各分署ニ達

川濠修繕ニ付揭示面左ノ通改正候條此旨相達候事但舊揭示面ハ其署ニ於テ書キ改メ方可取計事



○燈明番試檢手續 附錄一 卷參看

(參考) 明治十二年十一月十八日工部省第十六號ヲ以布達

今般長崎縣下肥前國五島ノ内福江島大瀬崎燈臺ニ於テ左ノ通第一等旋轉白色ノ燈明ヲ設ケ來ル十二月十五日ノ夜ヨリ點燈候條此旨布達候事

官令揭示心得 燈明番試檢手續



明治十二年(西曆千八百七十九年)第三號

大瀬崎燈臺

一 肥前國五島極南ノ一島ナル福江島西南ノ極地大瀬崎燈臺ニ於テ第一等旋轉白色ノ燈明ヲ設ケ明治十二年十二月十五日(西曆千八百七十九年第十二月十五日)ノ夜ヲ始トシ日没ヨリ日出迄毎夜點燈ス

一 該地ハ英國海軍局第三百五十八號ノ海圖ニ依レハ北緯三十二度三十六分四十五秒ニシテ(グリノニツチ)ヨリ東經百二十八度三十六分六秒ニ當ル

一 燈臺ハ鑄造白色ニシテ基礎ヨリ燈火ニ至ル迄高サ三丈六尺五寸ナリ

一 燈明ハ第一等旋轉白色ニシテ半分時毎ニ一閃光ヲ

發シ海面二百三十四度十五分ヲ照輝シ一方ハ南五十八度五十三分東又一方ハ北四度三十八分西ノ方位ニテ蔽陰ス

但右ハ眞方位ナリ

一 燈火ハ海面ヨリ高サ二十六丈五尺ニシテ晴天ノ時其光線凡二十二里半(海里)ニ達ス

(參考) 明治十二年十二月廿七日  
工部省第十八號ヲ以布達

今般宮城縣下陸前國金花山燈臺ニ於テ左ノ通壹個ノ霧笛ヲ設置候條此旨布達候事

明治十二年(西曆千八百七十九年)第五號

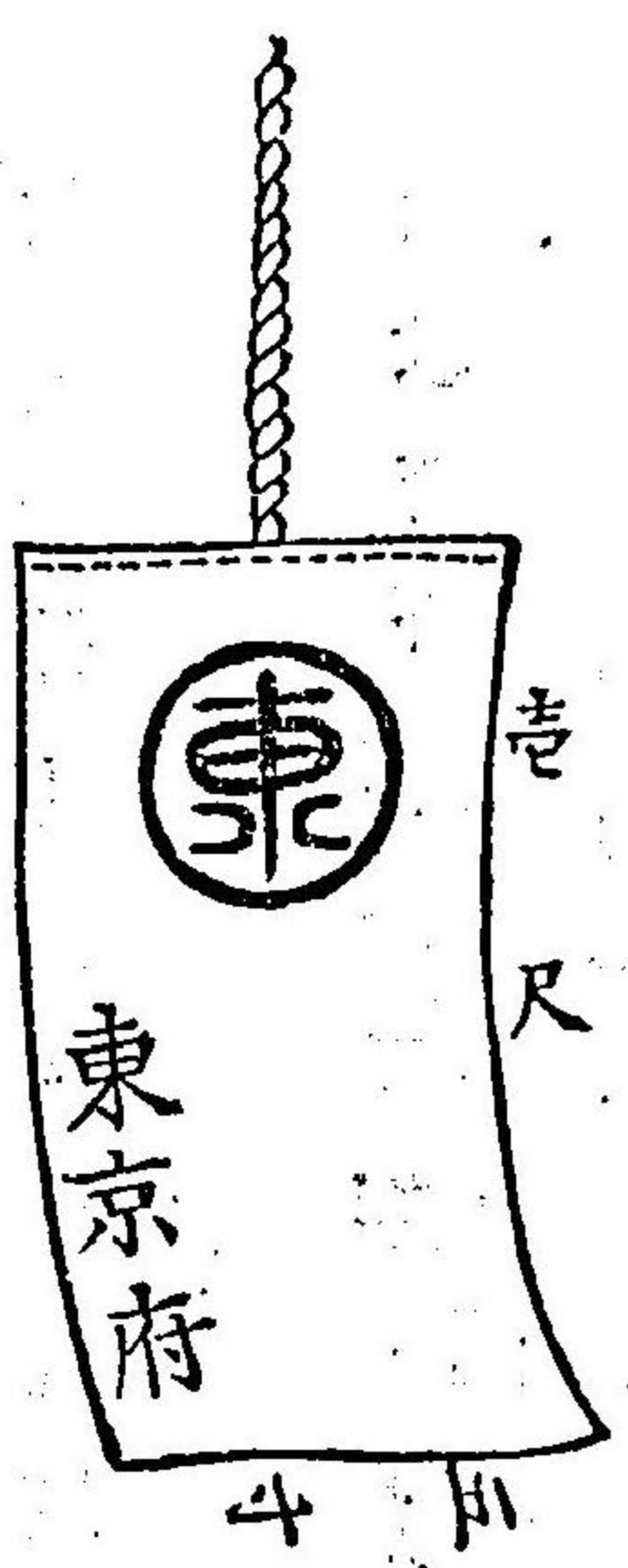
金花山燈臺蒸氣霧笛



陸前國金花山燈臺ニ於テ壹ケノ蒸氣霧笛ヲ設置セ  
 リ霧笛ハ降雨或ハ密雪等ノタメ日間近傍ノ陸地不  
 分明ナルカ或ハ夜間燈明ノ見エ難キ時之ヲ吹鳴ス  
 へシ  
 霧笛ハ五十五秒時間ヲ隔テ五秒時間ノ轟聲ヲ發ス  
 へシ

(參考) 明治十二年七月廿四日警視本  
 署第百二號ヲ以各分署へ達

川濠ノ修繕及ヒ河浚等ノ爲メ通船禁止ノ榜牌建設有  
 之場所ヲ該工業用ニ付通行スル運送船ハ以來左ノ目  
 章相用候段東京府ヨリ通知越候條此旨相達候事



(參考) 明治十二年十二月廿日  
 工部省第十七號布達

今般青森縣下陸奥國尻矢崎燈臺ニ於テ左ノ通壹個ノ  
 霧笛ヲ設置候條此旨布達候事

明治十二年(西曆千八百七十九年)第四號

尻矢崎燈臺蒸氣霧笛

陸奥國尻矢崎燈臺ニ於テ一箇ノ蒸氣霧笛ヲ設置セリ



尻矢崎ハ津輕海峽ノ入口ニシテ陸奥國東北ノ一岬ナ  
 リ  
 霧笛ハ降霧或ハ密雪ノタメ日間近傍ノ陸地不分明ナ  
 ルカ或ハ夜間燈明見ヘ難キ所之ヲ吹鳴スヘシ  
 霧笛ハ每一分時ヲ隔テ六秒時間ノ轟聲ノ發ス蒸氣未  
 騰ナルカ或ハ不意ノ事變ニ依テ霧笛ヲ吹鳴スルヲ能  
 ハサル節ハ燈臺外椽ニ懸置セル霧鐘ヲ兼テ布達セシ  
 如ク一分時間ニ十五度宛ノ割合ヲ以テ打鳴スヘシ

○學制及教育令 附錄二卷一丁同七卷三百五十五卷參看

(改正) 明治十二年九月廿九日  
 大政官第四十號布告

明治五年八月第二十四號ヲ以テ布告候學制相廢シ更  
 ニ教育令別冊ノ通相定候條此旨布告候事

教育令

第一條 全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ學  
 校幼稚園書籍館等ハ公立私立ノ別ナク皆文部卿ノ  
 監督ニアルヘシ

第二條 學校ハ小學校中學校大學校師範學校專門學  
 校其他各種ノ學校トス

第三條 小學校ハ普通ノ教育ヲ兒童ニ授クル所ニシ  
 テ其學科ヲ讀書習字算術地理歴史修身等ノ初步ト  
 ス土地ノ情況ニ隨ヒテ僻處唱哥體操等ヲ加ヘ又物  
 理生理博物等ノ大意ヲ加フ殊ニ女子ノ爲ニハ裁縫

學制及教育令



ノ科ヲ設クヘシ

第四條 中學校ハ高等ナル普通學科ヲ授クル所トス  
第五條 大學校ハ法學理學醫學文學等ノ專門諸科ヲ授クル所トス

第六條 師範學校ハ教員ヲ養成スル處トス

第七條 專門學校ハ專門一科ノ學術ヲ授クル所トス

第八條 以上掲クル所何ノ學校ヲ論セス各人皆之ヲ設置スルコトヲ得ヘシ

第九條 各地方ニ於テハ每町村或ハ數町村聯合シテ公立小學校ヲ設置スヘシ

但町村人民ノ公益タルヘキ私公小學校アルトキハ別ニ公立小學校ヲ設置セサルモ妨ケナシ

第十條 町村内ノ學校事務ヲ幹理セシメシカ爲ニ學務委員ヲ置クヘシ

但人員ノ多寡給料有無ハ其町村ノ適宜タルヘシ

第十一條 學務委員ハ其町村人民ノ選舉タルヘシ  
第十二條 學務委員ハ府知事縣令ノ監督ニ屬シ兒童ノ就學學校ノ設置保護等ノコトヲ掌ルヘシ

第十三條 凡兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八ケ年ヲ以テ學齡トス

第十四條 凡兒童學齡間少クトモ十六ケ月ハ普通教育ヲ受クヘシ

第十五條 學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母及後見人等ノ責任タルヘシ



但事故アリテ就學セシメサルモノハ其事由ヲ學務委員ニ陳述スヘシ

第十六條 公立小學校ニ於テハ八ケ年ヲ以テ學期トス土地ノ便宜ニ因リテハ此學期ヲ縮ムルヲ得ヘシト雖モ四ケ年ヨリ短クスヘカラス此四ケ年ハ毎年授業スルヲ必四ケ月以上タルヘシ

第十七條 學校ニ入ラスト雖モ別ニ普通教育ヲ受クルノ途アルモノハ就學ト做スヘシ

第十八條 學校ヲ設置スルノ資力ニ乏シキ地方ニ於テハ教員巡回ノ方法ヲ設ケテ兒童ヲ教授セシムルヲ得ヘシ

第十九條 學校ニ公立私立ノ別アリ地方稅若クハ町

村ノ公費ヲ以テ設置セサルモノヲ公立學校トシ一人若クハ數人ノ私費ヲ以テ設置セルモノヲ私立學校トス

第二十條 公立學校ヲ設置或ハ廢止セント欲スルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十一條 私立學校ヲ設置或ハ廢止スルモノハ府知事縣令ニ開申スヘシ

第二十二條 公立學校ノ教則ハ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十三條 私立學校ノ教則ハ府知事縣令ニ開申スヘシ

第二十四條 公立學校ノ費用府縣會ノ議定ニ係レル

學制及教育令



モノハ地方税ヨリ支辨シ町村人民ノ協議ニ係レル  
モノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十五條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校ニ於テ  
補助ヲ地方税ニ要スルキハ府縣會ノ議定ヲ經テ之  
ヲ施行スルヲ得ヘシ

第二十六條 公立學校ノ土地ハ免税タルヘシ

第二十七條 凡學事ニ供スル寄附金等ハ其寄附人ヨ  
リ指定セシ用途ノ外ニ支消スルヲ得ス

第二十八條 公立小學校ヲ補助センカ爲ニ文部卿ヨ  
リ毎年補助金ヲ各府縣ニ配付スヘシ

第二十九條 府知事縣令ハ文部卿ヨリ領取セン補助  
金ヲ各公立小學校ニ配付スヘシ

第三十條 前年中授業四ヶ月ニ滿タカリシ小學校ニ  
ハ補助金ヲ配付セサルヘシ

第三十一條 私立小學校タリト雖モ府知事縣令ニ於  
テ其町村人民ノ公益タルヲ認ムルキハ補助金ヲ  
配付スルヲ得ヘシ

第三十二條 教員巡回ノ方法ヲ以テ教授セシムルヲ  
一ケ年四ヶ月以上ニ至ルノ町村ニハ補助金ヲ配付  
スルヲ得ヘシ

第三十三條 各府縣ニ於テハ便宜ニ隨ヒテ公立師範  
學校ヲ設置スヘシ

第三十四條 公立師範學校ニ於テハ本校卒業ノ生徒  
ニ試験ノ後卒業証書ヲ與フヘシ



第三十五條 公立師範學校ハ本校ニ入學セサルモノト雖モ卒業證書ヲ請フモノアラハ其學業ヲ試験シ合格ノモノニハ卒業證書ヲ與フヘシ

第三十六條 公立師範學校ノ整備ヲ要セシカ爲ニ文部卿ヨリ補助金ヲ各府縣ニ配付スルヲアルヘシ

第三十七條 教員ハ男女ノ別ナク年齡十八年以上タルヘシ

第三十八條 公立小學校教員ハ師範學校ノ卒業證書ヲ得タルモノトス

但師範學校ノ卒業證書ヲ得スト雖モ教員ニ相應セル學力ヲ有スルモノハ教員タルモ妨ケナシ

第三十九條 文部卿ハ時々吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事

ノ實況ヲ巡視セシムヘシ

第四十條 公私學校ニ於テハ文部卿ヨリ發遣セル吏員ノ巡視ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十一條 府知事縣令ハ管内學事ノ實狀ヲ記載シテ毎年文部卿ニ申報スヘシ

第四十二條 凡學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルコトヲ得ス

但小學校ニ於テハ男女教師ヲ同クスルモ妨ケナシ

第四十三條 凡學校ニ於テ授業料ヲ收ムルト收メサルトハ其便宜ニ任スヘシ

第四十四條 凡兒童ハ種痘或ハ天然痘ヲ歷タルモノ

學制及教育令



ニ非サレハ入學スルコトヲ得ス  
第四十五條 傳染病ニ罹ルモノハ學校ニ出入スルヲ  
ヲ得ス

第四十六條 凡學校ニ於テハ生徒ニ體罰毆ヲ或ハ縛  
ヲ加フヘカラス

第四十七條 生徒試驗ノキハ父母或ハ後見人等其學  
校ニ來觀スルヲ得ヘシ

(參考) 明治十二年十一月十日  
文部省第四號ヲ以布達

文部省明治六年(八月)第百十五號布達廢止候條此旨布  
達候事

(參考) 明治十二年十一月十二日  
文部省第五號ヲ以布達

公立幼稚園書籍館等ヲ設置或ハ廢止セント欲スルモ  
ノハ公立學校同様府知事縣令ノ認可ヲ經ヘキ儀ト可  
心得此旨布達候事

(參考) 明治十二年十一月十二日  
文部省第六號ヲ以布達

私立幼稚園書籍館等ヲ設置或ハ廢止スルモノハ私立  
學校同様府知事縣令ニ開申スヘキ儀ト可心得此旨布  
達候事

(參考) 明治十二年十一月十二日  
文部省第七號ヲ以布達

學制及教育令  
公立幼稚園ノ保育法ハ公立學校ノ教則同様文部卿ノ認  
二七三



可ヲ經ヘシ私立幼稚園ノ保育法ハ私立學校ノ教則同  
様府知事縣令ニ開申スヘキ儀ト可心得此旨布達候事

(參考) 明治十二年十二月廿六日內務  
大藏兩省乙第五十四號ヲ以達

本年九月太政官第四十號布告第廿六條ニ有之公立學校  
ノ土地トハ學校構内ノ土地ニ限ルモノニシテ其地ハ  
民有地第一種ノ儘ニシテ免稅スベキ主意ニ候條爲心  
得相達候事

(參考) 明治十二年七月九日東京  
府甲第六十八號ヲ以達

商業夜學校ヲ廢シ自今左ノ各校へ庶民夜學校ヲ開設  
候條此旨布達候事

但學則並入校手續ノ儀ハ追テ學務課ヨリ可及報告

候事

麴町區	平川小學校	神田區	神田小學校
日本橋區	坂本小學校	京橋區	文海小學校
芝區	櫻川女學校	麻布區	飯倉小學校
赤坂區	赤坂小學校	四谷區	四谷小學校
牛込區	赤城小學校	下谷區	練塀小學校
淺草區	戶田小學校	本所區	公惠小學校
深川區	深川小學校	小石川區	黒田小學校
本郷區	本郷小學校		

(參考) 明治十二年十二月十七日  
東京府ヨリ郡區役所へ達

學制及教育令



明治十二年度文部省配付小學補助金ノ内公立小學校  
へ配付スヘキ金額並ニ配付方法本年(六月)下第五百十  
八號ヲ以テ相達置候處教育令御頒布相成候ニ付テハ  
明治十三年一月ヨリ同年六月ニ至ル迄ノ分即二千五  
百五十八圓ノ半額ハ本年中授業四ヶ月ニ滿タサル學  
校ヲ除キ明治十三年六月一日現在ノ生徒ニ分頭シテ  
其學校ニ配付致スヘク候條此旨相達候事

(參考) 明治十二年十二月廿八日文  
部省第八號ヲ以府縣へ達

公立學校ノ教則文部卿ノ認可ヲ經ントスルモノハ其  
學科學期課程教科書及生徒教養ノ目的等ヲ記載可致  
此旨相達候事

(參考) 明治十二年十二月廿八日文  
部省第九號ヲ以府縣へ達

公私學校ノ教旨府知事縣令ニ於テ弊害アリト認めル  
モノハ其事由ヲ具シ文部卿へ稟申可致此旨相達候事

(參考) 明治十二年十二月廿八日文  
部省第十號ヲ以府縣へ達

文部省配付小學校補助金小學校若クハ町村へ配付ノ  
儀ハ學齡兒童就學兒童學校生徒ノ數ニ據リ或ハ其他  
ノ情況ニ應シ適宜ノ方法相設ク可伺出此旨相達候事

(參考) 明治十二年十二月十七日文  
部省乙第四號ヲ以府縣へ達

文部省配付公立師範學校補助金遺拂ノ儀文部省明治



十一年十一月第十號ヲ以テ相達置候處右ハ自今師範學校教員給料師範學校書籍器械費師範學校修繕費ノ外支消不相成候條此旨相達候事

(參考)

明治十二年十二月十九日 文部省第五號ヲ以テ府縣へ達

教育令第三十一條府知事縣令ニ於テ私立小學校ノ町村人民ノ公益タルコトヲ認ムルニハ該學校ノ地位兒童ノ就學ニ便シ學期等公立小學校ト同様ニシテ學科課程等都テ其町村人民ノ公益タルベキ者ヲ以テ之ヲ認定スヘキ儀ト可心得且同條ニ因リテ補助金ヲ受ケタル私立小學校ニ對シテハ府知事縣令其管理ノ方法ヲ設ケ文部卿ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得ヘキ儀

ト可心得此旨相達候事

(參考)

明治十二年十二月十九日 文部省第八號ヲ以テ布達

教育令第九條但書町村人民ノ公益タルヘキ私立小學校ハ兒童ノ就學ニ便シ學期等公立小學校ト同様ニシ學科課程等都テ其町村人民ニ於テ公益トナシ而シテ府知事縣令ニ於テ公益ト認メタルモノト可心得尤該小學校ノ教則ハ府知事縣令ヨリ文部卿へ開申可致此旨布達候事

(參考)

明治十二年十二月廿八日 文部省第九號ヲ以テ布達

各地方ニ於テ教員巡回ノ方法ヲ設ケ兒童ヲ教授セシメントスルモノハ其教則ヲ編成シ公立學校ノ教則同

學制及教育令



様文部卿ハ認可ヲ經ヘキ儀ト可心得此旨布達候事

(參考) 明治十二年十二月廿八日  
文部省第十號ヲ以布達

文部省配付小學校補助金遺拂ノ儀自今小學校教員給  
料小學校書籍器械費小學校修繕費ノ外支消不相成候  
條此旨布達候事

(參考) 明治十二年十二月四日東  
京府學務課報告第十三號

本府師範學校一期速成生二十五名二期速成生十名募  
集相成候ニ付年齡十八年以上ニシテ志願ノ者ハ本月  
十五日限り同校へ可申出此旨報告ス

(參考) 明治十二年十二月廿五日東  
京府學務課第十六號通達

從來各公立小學教員假派出ノ者委囑不致分ハ本課ニ  
リ出校ヲ指止メ來候處爾來校務委員ニ於テ相斷候上  
直ニ本課へ其事由ヲ具狀致シ候様御取計有之度此段  
及御通達候也

追テ學事雜則頒布以前ヨリ引續キ在勤未ダ結約不  
致分ハ此限ニ無之候條此段申添候也

○兵學局生徒入寮規則

(參考) 明治十二年七月海軍省  
乙第六號ヲ以府縣へ達

本年一月四日付ヲ以テ相達候當省兵學校規則運用砲  
兵學局生徒入寮規則



術科生徒試験規則中第六條左ノ通改正候條爲心得此旨相達候事

運用砲術科生徒試験規則第六條卒業大試験ハ終期大試験ヲ經テ實地航海一ケ年ノ後施行シ級第ノ者ハ卒業免狀ヲ附與シ尙一期復習ヲナサシム

○官林及監主人規則

(參考) 明治十二年十月七日內務省ヨリ地理局へ達

山林原野ニ係ル事務左之通可被取扱此旨更ニ相達候事  
一般山林原野地ノ處分方ハ總テ山林局ニテ主管シ

其處分ノ山林事務外一般ノ處分ニ關係ヲ有スル事

ハ地理局へ合評スルモノトス

但地理局へ合評セサルモノニテ地種地目ノ變換

ニ係ル事件ハ處分濟ノ上地理局へ通知スベシ

社寺上地ト雖モ山林原野ノ衆稱ヲ負フモノハ山林

局ニテ主管シ地理局へ合評スルモノトス

(參考) 明治十二年九月廿九日內務省山林局ヨリ御雇ノ者出役ノ節宿泊帳へ旅亭ノ証印徵求ノ儀ニ付府縣出張吏員へ達

各中區日給御雇之者出役候節ハ宿泊帳ヲ製シ每次其宿泊セシ所ノ村吏又ハ旅亭ノ証印ヲ徵シ追テ給料渡方之節出役仕譯書ニ添差出サセ各出張員ニテ仕譯書ト突合可致又監守人之儀官林境界調其他標木建設等

官林及監主人規則



ニテ殊更ニ巡回申付候節及盜伐木一件ニ付出張所又ハ警察署等へ出張宿泊セルキハ監守給豫算内ヨリ増日給トシテ一日金二十錢ツ、ヲ給與シ右仕譯書及宿泊帳差出サセ方之手續ハ日給生同様可取計此段相違候事

但本文監守人増日給之儀ハ年給渡方期限ニ不拘其都度渡方取計諸經費勘定帳へ組込日々精算可致事

(參考) 明治十二年九月廿九日內務省山林局ヨリ製表書休ノ儀ニ付同上

製表書休之儀ハ本年四月地理局甲文第四十一號達製表式條例ニ照準シ記載方一定可致等之處往々數位ノ文字高低等不注意之向モ有之調査上不都合不少候條

自今反別ノ町步位金員圓厘位等各高低ヲ生セヌ步厘ノ下空位ナレハ半白圈ヲ填シ空白ヲ餘サ、ル様可致注意此旨相違候也

(參考) 明治十二年十月卅一日內務省無號ヲ以テ山林局長野縣へ達

昨十一年十二月中林區改正ノ儀相違候處尙實際ノ都合有之候ニ付第四林區信濃國木曾ノ内奈川費川奈良川ノ三ヶ村飛彈國大埜郡信山村組(字飯ヲ除ク)及同國同郡清見村(大原檜谷二組ヲ除ク)ヲ第三林區へ組替候條此旨相違候事

(參考) 明治十二年十一月十九日內務省無號ヲ以各府縣へ達